

令和2年度
「障害者の生涯学習支援活動」に係る
文部科学大臣表彰

事例集

令和2年度
文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室

令和2年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 事例集の発行にあたって

文部科学省では、障害のある方々が一生涯にわたって自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の充実に向けた取組を進めています。

この取組の一環として、平成29年度から、障害のある方の生涯学習を支える活動を行う個人又は団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対して、その功績を称える文部科学大臣表彰を行っています。

今年度も、全国から数多くの素晴らしい活動について御推薦をいただき、73の個人及び団体の皆様を表彰することになりました。全国各地、障害のある方々の身近なところで、長年にわたり継続されている模範的な学習活動が揃う結果となり、大変嬉しく思っております。

表彰された皆様の取組を、ぜひとも障害のある御本人様、保護者や支援者の皆様、都道府県、市区町村の障害者の学習支援に関わる皆様、社会教育、特別支援教育、障害福祉に関わる皆様など、幅広い方々に知っていただきたく、ここに1冊の事例集としてまとめました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、思うように活動を実施することができない状況がある中で、今後は様々な工夫を凝らした新しい学びの手法も必要となってくるでしょう。本事例集を多くの方に御覧いただき、障害のある方々の生涯学習を支える活動が、各地域に根差した形で、より一層推進されることを期待しております。

最後に、本事例集作成に当たりまして、表彰された皆様や都道府県、市区町村、関係団体等の皆様に多大な御協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

令和2年12月

文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室長 小林 美保

目 次

No.	推薦者	受賞者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	PRポイント	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
1	青森県	俊文書道会	書道を通した障害者の 生きがいを育むための支援	書は楽しい！！ ～みんなの心、筆に託して～	文化芸術	1
2	岩手県	久慈地域卓球バレー協会	久慈地域卓球バレー協会	卓球バレー ～みんなで「できた」「楽しい」を～	スポーツ その他(国際 交流)	2
3	秋田県	NPO法人 アートリンクうちのあかり	NPO法人 アートリンクうちのあかり	活動に美大生が参加しており、参加者 同士や美大生との相互のかかわりを大 切にしています。障害種や年齢を問わ ず、多様な方たちが自分の興味・関心 に沿った創作活動を行っています。	文化芸術	3
4	山形県	社会福祉法人 輝きの会 地域福祉センターいきいきの 郷	発達障がいをもつ児童と その親の水泳教室	親子一緒に楽しく水泳 生涯スポーツで広がる社会参加	スポーツ	4
5	栃木県	小池上 惇	宇都宮市立中央図書館 音訳・点訳アドバイザー	視覚障害者の立場から 図書館の音訳・点訳資料作成を支 援	学習	5
6	栃木県	山田リズム体操クラブ	リズム体操・ダンスを通した 障がい者の生涯学習支援活動	明るく、なかよく、元気よく！	スポーツ	6
7	群馬県	唐沢 和男	サン フラワー	みんなが芸術家！ 合い言葉は“太陽の心”	学習 文化芸術	7
8	群馬県	社会福祉法人 孺恋村社会福祉協議会	障害者余暇活動支援事業 (カラオケ・アトリエもく・『ダンス・ ダンス・ダンス』・なかよしクラブ)	自分の楽しみを見つけよう！	学習 スポーツ 文化芸術	8
9	埼玉県	る・ばる・デ川口	障害者の余暇活動 (フォークダンス)	ダンスの好きな青年あつまれ！ ダンスを通して交流を！	スポーツ 文化芸術	9
10	千葉県	サンスマイル実行委員会	「ふれあい広場サンスマイル」	「みんなちがって、みんないい」を テーマにしています。	文化芸術	10
11	千葉県	特定非営利活動法人 いちかわ市民文化ネットワ ークル)	「チャレンジド・ミュージカル (ハンディキャップド・ミュージカ ル)」	障害のある人もない人も、子どもも 大人も、一緒になって創る・楽しむ 「チャレンジド・ミュージカル」	文化芸術	11
12	東京都	板橋区ダウン症児・者親の会 「ほほえみの会」	ぽこ・あ・ぽこ(音楽活動)	知的障害があっても生涯学習は 大切！！	学習 スポーツ 情報保障	12

No.	推薦者	受賞者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	PRポイント	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
13	東京都	きさらぎジュニア	「きさらぎどんぐり」 「きさらぎジュニアミニ」 「きさらぎジュニアボランティア」	障害の有無、老若男女にかかわらず、みんなで活動！	スポーツ	13
14	東京都	公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団	障害者が日常的にスポーツ活動を行う場の提供と障害者スポーツの普及・啓発事業	ココロ・カラダ、あしたも元気に。	スポーツ	14
15	東京都	東村山音訳の会	東村山音訳の会	正しい音訳、聞きやすい音声表現を目指しています。	情報保障	15
16	神奈川県	赤坂 美保子	パラスポーツ教室の開催等普及啓発の促進	障害者スポーツの理解と普及促進を目的に、「パラスポーツ教室」を毎月1回開催(参加費無料)はだのパラスポーツフェスティバルやフライングディスク大会の運営	スポーツ	16
17	神奈川県	公益財団法人 茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団 茅ヶ崎市美術館	茅ヶ崎市美術館 企画展「美術館まで(から)つづく道」～インクルーシブデザインの手法を活用したフィールドワークを表現へ～	多様な人との関わりから創出された作品による美しい体験は、バリアそのものを融解させた	文化芸術	17
18	新潟県	特定非営利活動法人 新潟県高度情報社会生活支援センター	情報のバリアフリー	障害者を対象としたパソコン教育、職業訓練、就労支援	学習 情報保障 その他(社会参加サポート)	18
19	富山県	特定非営利活動法人 障害者アート支援工房ココペリ	・知的障害のある人を中心とした美術文化活動の支援 ・ワークショップや展覧会の開催による普及活動	創る人も支える人も、アートを味わい、互いに関わる中でそれぞれの光を見つけ、共に豊かになっていく！	文化芸術	19
20	福井県	のびのびカルチャー講座	障がい者の学習・スポーツ・文化等の余暇活動支援	学校卒業後の余暇活動を通じた生きがいがづくり&仲間づくり	学習 スポーツ 文化芸術	20
21	福井県	ボランティア朗読友の会	図書・雑誌・新聞等の音訳奉仕活動、対面朗読活動	音訳図書の製作や対面音訳を通じた視覚障がい者への情報保障ボランティア	情報保障	21
22	山梨県	山梨青い鳥奉仕団	山梨青い鳥奉仕団	私は小さい青い鳥。 点字・声・文字を届けます。	情報保障	22
23	長野県	長野市点訳グループ てんとう虫	視覚障害者に対する点訳活動 点訳活動に関わる点訳者の育成	点字は6個の点の組み合わせ。普通の文字を点字に置き換える点訳は、単純そうでなかなか奥が深い。本好きならきっとその魅力にはまります！ボランティアを楽しんじゃおう！！	学習	23
24	静岡県	焼津市くろしお青年学級	焼津市くろしお青年学級	誰もが夢や希望を持って生涯を通して学び続ける活動	学習 スポーツ 文化芸術 その他(旅行)	24
25	愛知県	岩倉市音訳の会 あめんぼ	音訳活動	35年間という長年にわたり、岩倉市の視覚障がい者の方などに向け、音訳活動を行っています。	学習 文化芸術	25

No.	推薦者	受賞者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	PRポイント	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
26	愛知県	特定非営利活動法人 なかまの家	「ともまなびセミナー」まちを学校に・・・ おもしろ体験子屋、ひかりの人々展	「みんなの笑顔が見たいから」 世代を超えて・違いを認め合い たのしもう	学習 文化芸術	26
27	三重県	四日市市手をつなぐ育成会	本人活動部会 「ひながの会」「サクラ会」 「おんなのこくらぶ」 「おとこのこくらぶ」	自分の好きなことを見つけよう、楽しもう	学習 スポーツ 文化芸術	27
28	京都府	綾部市教育委員会 教育部社会教育課	綾部障害者青年学級、聴覚障害者成人講座、視覚障害者成人講座、綾部成人教室、難聴者成人講座	みんなイキイキ 思いを形に ～一人ひとりの夢と願いを実現～	学習 スポーツ 文化芸術	28
29	京都府	与謝野町障害者福祉会	与謝野町卓球バレー大会	障害者スポーツから生涯スポーツへ レシーブ！トス！アタック！ 卓球バレーで共生の輪を	学習 スポーツ その他(会員 間交流・福祉 増進)	29
30	大阪府	甘南備広場	甘南備広場	豊かな人のつながりをつくる生涯 学習	スポーツ 文化芸術	30
31	兵庫県	特定非営利活動法人 文化・福祉・人権サポート アエソン	指定相談支援事業所ライズアップ、地域活動支援センターライズアップ+、播磨町地域自立支援協議会事務局、NPO法人アエソンとしての単独事業	当事者自身の持つ力を引き出せる ボトムアップ型の学びの場と地 域づくりを目指しています。	学習 スポーツ 文化芸術	31
32	兵庫県	西村 正規	「スポーツをとおして生きがい仲間づくり・社会参加」	楽しくスポーツ、社会参加へレッツ ゴー！！	スポーツ	32
33	奈良県	特定非営利活動法人 ならチャレンジド	特定非営利活動法人 ならチャレンジド	特別支援学校の在校生・卒業生の個性豊かな作品展示および受付・ワークショップ等による来場者との交流事業	文化芸術	33
34	鳥取県	医療法人養和会 メディカルフィットネスセンターCHAX	皆生スポーツ広場	スポーツを楽しみ、共生社会の輪を 広げよう！	スポーツ	34
35	岡山県	津山市青年学級	津山市青年学級	青年が「笑顔」で「楽しく」活動しています！	学習 スポーツ 文化芸術	35
36	広島県	竹原市ふれあい運動会 実行委員会	竹原市ふれあい運動会	支え合い 励まし合い 力を合わせて 体力アップ！！	スポーツ	36
37	山口県	山口県 車いすバスケットボール連盟	大会の開催、全国大会等への参加及び強化合宿	クルクル回って自由に動ける バスケットボール用車いすを体験 しませんか。	スポーツ	37
38	徳島県	江川 禎彦	障がい者(児)に対するスポーツ活動支援及び社会参加の促進	生涯体育	スポーツ	38

No.	推薦者	受賞者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	PRポイント	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
39	徳島県	生田 誠治	「徳島県立障がい者交流プラザ」敷地内花壇及び屋上リハビリ公園のガーデニングボランティア	ガーデニングで、「こころやすらぐ環境づくり」	文化芸術	39
40	愛媛県	幸田 裕司	「障がい児者スポーツの支援・普及」	障がい者スポーツ全般の支援とメンタルケアに関する普及	スポーツ	40
41	愛媛県	とべ・ひびき会	「聴覚障がい者の生きがいつくり」	情報交換の場を作り、社会参加促進に努めています。	学習	41
42	高知県	矢野 泰彦	障害者の生涯スポーツの支援・普及	「スポーツを通じて知的障害のある人たちを応援するSON・高知の生みの親」	スポーツ	42
43	福岡県	布の絵本「ひまわり会」	障がいがある子どもや未就学児の成長と発達支援	安心・安全に触って遊べる布の絵本やおもちゃを通して子ども達の成長や発達に役立つことを目指します！	学習	43
44	熊本県	合志市音訳グループこだま	音声訳ボランティア活動	20年以上にわたる音声訳活動による視覚障がい者の方々への行政情報・福祉情報提供支援、生涯学習支援	学習 情報保障	44
45	大分県	アイメイト中津きさらぎ会	視覚障がい者の社会参加に協力	共に歩み、共に生きる社会の実現をめざして！	学習 スポーツ 情報保障	45
46	大分県	ヨカたの (余暇を楽しく過ごそう)	障がい者のスポーツ・文化サークル支援活動	閉じこもりがちで地域社会ともふれ合うチャンスの少ない知的障がい児(者)にその場と機会(余暇[ヨカ])を提供する団体です。また、ふれあいながく続けられる活動にするために、コンセプトは(楽しくたの)をモットーにしています。	スポーツ 文化芸術 その他(余暇活動)	46
47	鹿児島県	ひわきYOU遊スポーツクラブ	ひわきYOU遊スポーツクラブ グラウンド・ゴルフサークル	グラウンド・ゴルフを通した「共生社会づくり」の実現	スポーツ	47
48	鹿児島県	北斗会	「手話(しゅわ)わ」、コンサート活動(福祉・医療施設)	手話と音楽でつながるコンサート活動	学習 文化芸術	48
49	沖縄県	社会福祉法人 五和会 名護療育医療センター	ツールド・おきなわ バリアフリーサイクリング活動	熱帯の花となれ風となれ みんなで一緒にDUET/HANDBIKE de やんばる	スポーツ	49
50	沖縄県	玉城 達男	沖縄県立沖縄盲学校 三線クラブの指導	琉球古典音楽に親しみ三線演奏	文化芸術	50
51	仙台市	野口 和人	知的障害者・自閉スペクトラム症者に対する様々な生涯学習活動の場の創出と運営	仲間と共に将来にわたって生活を豊かにしていく居場所づくり	スポーツ 文化芸術	51

No.	推薦者	受賞者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	PRポイント	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
52	さいたま市	さいたま市聴覚障害者協会	聴覚障害者のための社会教養講座	聴覚障害を持つ人々が暮らしやすい街づくりをしていくための活動です！	学習 情報保障	52
53	横浜市	withネットワーク	バリアフリーWITHコンサート	笑顔・元気・絆をテーマとしたハートフル・ジョイントコンサート！	文化芸術	53
54	浜松市	三ヶ日町手話サークル「いちばん星」	三ヶ日町手話サークル「いちばん星」	手話で楽しく語ろう！！「いちばん星」	学習 文化芸術	54
55	岡山市	社会福祉法人あいあい就労継続支援B型事業所青葉作業所	障害者(知的・身体・精神)の生涯学習支援	命・はたらく・くらす・生きぬくー 楽しみといきがい 生涯学習ー	学習 文化芸術 その他(生活習慣改善・ボランティア・レクリエーション活動)	55
56	北九州市	公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	障害のある人、ない人が共にボランティア活動を通して障害のある人の社会参加を推進しています	その他(ボランティア活動、余暇活動、IT活動、スポーツ活動)	56
57	熊本市	NPO法人 オハイエくまもと	オハイエくまもと にとっておきの音楽祭	「オハイエくまもと にとっておきの音楽祭」は、毎年3月に市内8～9ヶ所のストリートを中心に開催、各ステージで障がいのある人もない人も一緒になってふれあいます。	文化芸術	57

No.	推薦者	受賞者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	PRポイント	分野	ページ
【文部科学省推薦関係】						
58	特別支援教育 ＜全国特別支援教育推進連盟＞	社会福祉法人金沢手をつなぐ親の会(あすなる学級)	あすなる学級	あなたの生涯学習の場です	学習 スポーツ 文化芸術	58
59		社会福祉法人日本肢体不自由児協会	「肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展」、「スプリングキャンプ」	社会参加に向けて、家族と社会の間に立ってサポート	文化芸術	59
60	障害者スポーツ ＜日本障がい者スポーツ協会＞	一般社団法人日本肢体不自由者卓球協会	パラリンピック等国际大会での選手の活躍に向けた事業、地域での肢体不自由者卓球の普及活動	生涯を通じた障害のある卓球愛好者の拡大	スポーツ	60
61		一般社団法人日本身体障害者アーチェリー連盟	パラリンピック等国际大会での選手の活躍に向けた事業、地域での障害者アーチェリーの普及活動	体力・年齢に関わらず、長く続けられる生涯スポーツ	スポーツ	61
62	障害者文化芸術活動 ＜全国芸術系大学コンソーシアム＞	海老塚 耕一	芸術鑑賞	触れてみる展覧会、あそびじゅつ(ワークショップ)を通じた誰もが楽しめる美術、芸術鑑賞	文化芸術	62
63	障害者文化芸術活動 ＜2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク＞	岡山もものを会を支援する会	岡山もものを会の活動支援・啓発活動	23年間の当事者の会支援～豊かな生活を！！	学習 スポーツ 文化芸術 その他(旅行・清掃ボランティア活動)	63

No.	推薦者	受賞者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	PRポイント	分野	ページ
【文部科学省推薦関係】						
64	大学における学習 ＜各大学＞	淑徳大学 手話サークル 「たんぼぼ」	手話を通じた障害者の生涯学習 支援および地域活性化のための 活動の普及と発展	たんぼぼは障害者の生涯支援活動を行いつつ も、支援をする側・される側に別れること なく、障害者と健常者が対等に交流をする 中で、お互いに壁を感じずに過ごせるよ う、理解を深めています！	学習 文化芸術 情報保障	64
65		東京学芸大学 「ふれる・もつ・かんじる」展 実行委員会	「ふれる・もつ・かんじる」展	触れる・持つ・感じる 感覚から生まれる感動！ 造形活動の可能性！	文化芸術	65
66		長岡技術科学大学 地域児童生徒・障害支援 のためのパソコン教室 「みんなのパソコン教室」	総合支援学校卒業生を含む地域 児童生徒・障害者への支援のた めのパソコン教室	パソコン教室における協働的行為 の継続によってピア・サポートの輪 を広げる	学習 文化芸術 情報保障	66
67		名古屋市立大学 障害者問題研究会	日曜つゆはし学校(通称:日学)	交流を通して理解を深める	学習	67
68		滋賀県立大学ボランティア サークルHarmony	障がい児・者、自立支援・共生社 会プロジェクト	モットーは「無理なく、楽しく！」	学習 スポーツ 文化芸術 その他(余暇 活動)	68
69		神戸市外国語大学 ボランティアコーナー 学生スタッフ	学園東町なかよしのお楽しみ会	協力、継続、工夫で育む子どもた ちの成長	その他(子ど もの遊びの 機会保障)	69
70		広島大学大学院 人間社会科学部研究科附属 特別支援教育実践センター	障害のある人の学び・暮らしの力 を支える実践的活動	障害のある人もない人も、 共にグローバルな活躍をめざそ う！	学習	70
71		愛媛大学教育学部 特別支援教育講座 TREASuREプロジェクト	TREASuRE(トレジャー)プロジェクト	生涯学習が障害のある人を 地域の宝に変える！	学習 情報保障 その他(ライ フスキル教 育)	71
72		中村学園大学 発達支援センター	青年期の発達障害者を対象とし た対人交流学習支援活動 動作法を通じた自立支援活動	幼児から大人まで、多様性ある人 が集い、からだもこころもこちよ く。	その他 (心理療法)	72
73		九州ルーテル学院大学 自閉症支援部	自閉スペクトラム症児・者への生 涯学習支援活動	幼児、小学生、中学生、高校生の4つの 年齢別グループでの遊びや学習、余暇 活動等の支援及びピアカウンセリング や情報交換をととした保護者支援	その他(自閉ス ペクトラム症 児・者への生 涯学習支援活 動)	73

プロフィール

活動地	青森県八戸市
団体名	俊文書道会
活動名称	書道を通した障害者の生きがいを育むための支援
PRポイント	書は楽しい！！～みんなの心、筆に託して～
連携している団体等	特別支援学校、文化芸術活動を行う団体、企業・事業所

功労者表彰

活動分野	文化芸術
主な対象	障害種問わず (主に知的障害・聴覚障害・ 肢体不自由等)
団体の規模	指導者 1名 会員 35名

活動の説明

①活動内容	<p>俊文書道会では、書道の指導を通じて、小学生から成人まで障害のある方と障害のない方が共存し、お互いに助け合い、刺激し合いながら自己表現の方法を学び、生涯にわたって生きがいを見つけることができるように支援を行っています。休日の日中に指導者の自宅を利用し、会員を数名ずつ割り当て、知的障害や肢体不自由等の障害の特性を十分考慮しながら指導しています。多くの人に作品を見ていただいて会員の励みにしようと始めた「書の発表会」は毎年継続的に開催され、令和2年には第20回記念「書の発表会」を開催することができました。</p> <p>同会の活動に賛同する市内の企業・店舗からの作品展示の申し出により、「ガールズ展」「男の墨3人展」「ガールズ&ウーマン16人展」などの企画展も開催しています。会員の作品が公募で入賞することも増え、同会の活動が広く知られるようになったことで、青森県内だけでなく関東方面でも「書の発表会」が開かれるようになりました。令和2年に東京都の国立新美術館で開かれた「日本の書200人選」では、同会に通う3名の作品が展示されました。令和3年には、これまでの作品を集録した作品集の出版や東京都内での「書の発表会」開催を予定しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>同会の代表兼指導者の西里俊文氏は、青森県立八戸第一養護学校に採用され、担当教科の数学とともにクラブ活動等で児童・生徒に書道を指導していました。青森県立八戸聾学校に異動となった際、それまで西里氏から書道を教わっていた児童・生徒5名の「書を書きたい」という強い要望に応え、無償で書道教室を始めたのがこの会の始まりです。その後、会員同士、保護者、企業や書道団体の協力・支援を受けながら20年以上にわたり活動を続けています。</p>
③活動の効果等	<p>一人一人の作品に対する思いや考えを大切に、小さなことにも耳を傾け、話を聞いてコミュニケーションを図るなど、自身がイメージする作品を書くことができるように支援しています。その結果、会員が自信をもって書道に取り組めるようになりました。また、同会の取組に共感し、入会を希望する方も増えており、今後も書道を通じて障害のある人と障害のない人の交流を深め、生きがいを育む取組を継続していくことが期待されています。</p>

活動の様子



第20回記念「書の発表会」ラピア展の様子



青空書道教室の様子

プロフィール	
活動地	岩手県久慈市他
団体名	久慈地域卓球バレー協会
活動名称	久慈地域卓球バレー協会
PRポイント	卓球バレー ～みんなで「できた」「楽しい」を～
連携している団体等	小学校、特別支援学校、公民館、PTA、社会福祉法人、企業・事業所、行政(教育委員会、保健・福祉部局)、その他(老人クラブ、一般社団法人岩手障がい者スポーツ協会、独立行政法人 JICA 東北)

奨励者表彰	
活動分野	スポーツ、その他(国際交流)
主な対象	障害種問わず (主に肢体不自由)
団体の規模	会員 21名



活動の説明	
①活動内容	<p>【大会（あまちゃんカップ）の開催】 障がいの有無に関わらず、共にスポーツを通じた交流が図ることができるよう、一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会と連携し、平成30年から大会（あまちゃんカップ）を開催しています。総勢200名程度（H30年度:185名、R1年度:208名）が参加する大会となっています。</p> <p>【定期練習会・講習会の開催】 毎月第2水曜日に練習会を開催したり、PTAからの依頼や各地区公民館における講習会を開催したりしています。</p> <p>【交流大会への参加、県外への広報活動等】 他地域の交流大会に参加し、競技レベルの向上を図るとともに、審判員の派遣、他県の訪問など、他地域・他団体との交流等をとおして広く普及・啓発・広報活動を行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>障がい者スポーツ指導員講習会で卓球バレーを体験した有志が、久慈広域で卓球バレーを普及することを目的に、平成29年4月から活動を開始した団体です。</p> <p>現在、21名の会員（障がいのある方も加入）で組織される団体です。全会員から会費を徴収し、会の運営を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>○これまでスポーツに参加できなかった障がいのある方のスポーツ活動の場となっています。</p> <p>○講習会で学んだ受講者が大会に参加するなど、学びと活動の循環が生まれています。</p> <p>○障がいのある会員が、地域の交流事業に審判員として派遣されるなど、地域社会とのつながりが生まれています。</p> <p>○数多くの機関・団体との連携のもと、大会の開催や定期的な練習会の実施、講習会の開催、他団体・他地域との交流など多様な活動を展開し、障がいの有無に関わらず楽しめるスポーツの普及・啓発活動に取り組んでいます。</p> <p>○各活動を通して障がいに対する理解促進や共生社会づくりの推進を図っています。</p>

活動の様子	
	
卓球バレー久慈交流大会（あまちゃんカップ）の開催	歓迎レセプション（あまちゃんカップ）に参加したJICA研修生の皆さん（10か国11名）

プロフィール	
活動地	秋田県秋田市
団体名	NPO法人 アートリンクうちのあかり
活動名称	NPO法人 アートリンクうちのあかり
PRポイント	活動に美大生が参加しており、参加者同士や美大生との相互のかかわりを大切にしています。障害種や年齢を問わず、多様な方たちが自分の興味・関心に沿った創作活動を行っています。
連携している団体等	小中学校、特別支援学校、大学、NPO法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会、福祉部局、文化振興部局）、その他（秋田公立美術大学学生サークル「つちのあかり」）

奨励者表彰	
活動分野	文化芸術
主な対象	障害種問わず (主に知的障害・肢体不自由)
団体の規模	登録者 64名 職員 5名

活動の説明	
①活動内容	<p>○秋田市の地域活動支援センターとして承認を受けており、障害者が日常的に集い、制作や交流に取り組める拠点となっています。障害種や年齢に関わらず「いつでも、だれでも」取り組める生涯学習の場となっています。</p> <p>○展覧会「あきたアート はだしのこころ」を開催することで、障害者の表現・発表の機会を設け、県内における障害者の文化芸術活動の普及に尽力しています。</p> <p>○協力企業で作品展示を行う「作品ホームステイプロジェクト」を行っています。作品は定期的に入替えを行い、様々な作品を見ていただいています。また、県内の市町村教育委員会との連携による学校での移動展示や、地域行事（朝市や夏祭り）での活動紹介、ワークショップなど、幅広く活動を展開しています。</p> <p>○これらの活動を複合的に行うことで、利用する障害者が自分の関心や状況に応じて、多様な活動に取り組めるように工夫しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>○秋田公立美術大学における、教員と学生による障害者の芸術活動支援プロジェクトを母体とし、平成26年の「国民文化祭・あきた2014」もきっかけとして、平成27年にNPO法人「アートリンクうちのあかり」が設立されました。その後、秋田市の事業委託を受けて障害者による展覧会事業の企画・運営を行ってきました。</p> <p>○平成30年から秋田市の地域活動支援センターとして承認されました。廃止された地域の作業所の無償譲渡を受けて拠点として整備、運営しています。月・水・木・土・日曜日が活動日で、NPO法人のスタッフと、協力する学生サークルにより運営しています。</p>
③活動の効果等	<p>○展覧会「あきたアート はだしのこころ」は多数の来場者を集め、障害の有無に関わらない文化芸術活動の普及に貢献しています。</p> <p>○地域活動支援センターとしての「アートリンクうちのあかり」も、利用者への周知が図られることで利用人数が増加しています。活動に参加している障害者は、表現する場があることで力を発揮し、自信をもって生活できるようになってきています。</p> <p>○県内各地で、企業や学校、行政等と連携して多様な展示やワークショップを展開していることが地元紙の記事でも取り上げられ、広く周知が図られています。</p>

活動の様子	
	
自由に制作や交流ができる居場所	展覧会でのアーティストトークの様子

プロフィール

活動地	山形県山形市
団体名	社会福祉法人輝きの会 地域福祉センターいきいきの郷
活動名称	発達障がいをもつ児童とその親の水泳教室
PRポイント	親子一緒に楽しく水泳 生涯スポーツで広がる社会参加
連携している 団体等	小学校、特別支援学校、行政(教育委員会)

功労者表彰

活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害 発達障害
団体の規模	会員 27名 事務局員 3名

活動の説明

①活動内容	<p>小学1～6年生の、プールで泳ぐことに支障がない発達障がい児等とその親の2名1組を対象とし、10か月間で、水泳の基礎から個人に合う泳法の習得を目標として、親子で楽しく取り組むことができるプログラムを実施しています。例年5月下旬から翌年の2月下旬まで、原則毎月第2・4土曜日の午前10時から12時の間、10か月間で17回程度の教室を開催しています。</p> <p>定員は25組で、これまでに延べ233名が参加しています。</p> <p>児童が水に慣れ親しみ、泳法を身につけることによって、生涯にわたってスポーツに親しみきっかけづくりになっているとともに、技術面の向上につながっています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>当センターは、センター内の施設の一般開放を行っています。障がいのない人と一緒に泳ぐことが困難な障がいを持つ子どもが、好きなように泳ぐことができる場を提供しようと、施設内の温水プールを利用して、13年間にわたって開催してきました。</p> <p>参加児童を泳ぎのレベルに合わせて2グループ程度に分け、指導を展開しています。指導は、障がい者スポーツ指導員(令和元年度は4名)が行っています。</p>
③活動の効果等	<p>当教室に参加した児童は、水を怖がらなくなっていくます。また、泳ぐことができるようになっていくと、学校の水泳授業にも意欲的に取り組むようになります。さらに、水泳に興味を持ち、他のスイミングクラブに入会してステップアップを目指す児童もいます。</p> <p>本活動を通して、社会性や生活に必要な能力を身につけ、児童が成長する場にもなっています。参加経験がある児童が、新しく入った児童に時間やルールを守ることなどを教えるようになるなどの姿も見られます。また、障がいを抱える子どもを持つ親同士の情報交換や交流の場にもなっており、社会からの孤立防止にもつながっています。</p>

活動の様子



教室の風景1



教室の風景2

プロフィール	
活動地	栃木県宇都宮市
氏名	小池上 惇
活動名称	宇都宮市立中央図書館音訳・点訳アドバイザー
PRポイント	視覚障害者の立場から 図書館の音訳・点訳資料作成を支援
連携している 団体等	図書館

功労者表彰

活動分野
学習
主な対象
視覚障害

活動の説明

①活動内容	<p>宇都宮市立中央図書館において、下記の活動を通じて障害者サービスの充実に寄与しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 音訳奉仕員・点訳奉仕員への講習会 音訳奉仕員・点訳奉仕員に向けての講話を年2回実施 (令和元年の音訳奉仕員・点訳奉仕員等の在籍人数は60名) 音訳・点訳資料の校正 音訳資料について聴読者の立場から理解しやすい資料作成への助言をしています。 また、点訳奉仕員が作成した点訳資料の最終校正者として、質の高い資料の作成に貢献しています。小池上氏自身が視覚障害者であることから、触読による校正を行い、点字として読みやすいレイアウト等に考慮した資料を作成することができています。(令和元年度：音訳31点校正 点訳67点校正) 障害に対する理解促進行事への参加 宇都宮市立中央図書館において、「点字体験」事業を実施する際には、参加者に点字や視覚障害者向け福祉機器についての解説等をし、点字や障害に対する理解促進活動に貢献しています。 (「点字体験」の令和元年度の参加者は58名) 障害者向け事業への参画 視覚に障害がある方々に楽しんでいただくテープ作成のための落語会や、音訳奉仕員等が実施する朗読会の開催にあたり、内容が充実するよう助言をしています。
②活動の経緯・体制	<p>盲学校を退職後、平成17年に宇都宮市立図書館の「音訳・点訳アドバイザー」に就任し、以来15年間にわたり障害者サービス充実に尽力しています。就任時から、週1日、宇都宮市立中央図書館にて校正作業を行っているほか、視覚障害者の立場から、障害者理解のための講話を学校や企業で実施しています。</p>
③活動の効果等	<p>小池上氏の適切な助言をうけ、音訳・点訳資料とも、質の高い資料が作成されており、利用される方々から好評を得ています。作成した資料は宇都宮市在住の視覚障害者の方に提供されるほか、サピエ図書館等を通じて全国の視覚障害者の方々に利用されています。(令和元年サピエ点訳ダウンロード数1,004件) 今後は、後進の育成も念頭にいれながら、図書館と協力し、障害者が参画する障害者サービスのさらなる充実に目指していくことを考えています。</p>

活動の様子

	
音訳・点訳資料作成支援の様子	音訳・点訳資料作成勉強会の様子

プロフィール	
活動地	栃木県佐野市
団体名	山田リズム体操クラブ
活動名称	リズム体操・ダンスを通じた障がい者の生涯学習支援活動
PRポイント	明るく、なかよく、元気よく！
連携している団体等	保育所、小学校、特別支援学校、児童館、公民館、PTA、スポーツ団体、社会福祉法人、行政(教育委員会、保健・福祉部局、スポーツ)、その他(公益社団法人日本女子体育連盟)

功労者表彰	
活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害 肢体不自由
団体の規模	会員 160名 スタッフ 10名

活動の説明	
①活動内容	<p>山田リズム体操クラブは、公民館を主な活動場所とし、38年間にわたり健常者も障害者も一緒に楽しめるリズム体操・ダンス教室を行っています。リズム体操・ダンスを楽しむことによる心身の健康づくりと、地域貢献を団体の目的として月に3回活動しています。生徒たちは、全国大会に出場できたことや、今までできなかったことができるようになったこと、そしてその姿を多くの方に観てもらえることに素直な喜びを感じています。</p> <p>また、クラブ内活動だけでなく特別支援学校や福祉施設等と協働し、施設の生徒たちと親睦を深めているほか、親子教室を通して親子間の絆を深める等、地域と共に精力的な活動を行っています。教室等を企画・実施する上では、生徒一人ひとりの個性や長所が発揮できるように関係者間で適宜意見を出し合い、指導改善に努めています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>山田喜美江代表の培ってきた知識と経験のもとに、体力がない、運動が苦手、障害により激しい運動ができない等の理由があっても誰もが楽しく体を動かせるようになることを目標にクラブが発足しています。現在、スタッフ及び会員が年々増えており、活動の幅も全国にまで広がっています。また、現体制を継続していけるよう若手スタッフには積極的に経験を積む機会を与え、後進の育成にも注力しています。</p>
③活動の効果等	<p>最初は体力もなく落ち着きもない生徒たちが、健常者に交じり手を取ってリズム体操・ダンスをすることで、体を動かせることや踊りによって表現できる喜びを知り、体力もつき、元気で明るい表情を見せるようになります。さらに、生徒たちの直向きな姿が保護者や参集者の方の心にも喜びを与えています。今後も活動により多くの方が笑顔や喜びで溢れるよう、スタッフ一丸となって継続して活動していきます。</p>

活動の様子	
	
福祉施設の運動会での様子	健康体操発表会の様子

プロフィール	
活動地	群馬県吾妻郡中之条町
氏名	唐沢 和男
活動名称	サン フラワー
PRポイント	みんなが芸術家！合い言葉は“太陽の心”
連携している団体等	公民館、社会福祉法人

功労者表彰

活動分野
学習、文化芸術
主な対象
障害種問わず(青年)

活動の説明

① 活動内容	<p>障害種は問いませんが、大半は知的障害のある方たちです。ピアカウンセリングを考え、会長・副会長・書記を人選し、参加者同士で話し合い、絵画や折り紙、切り絵等の創作活動やクリスマス会、忘年会、新年会などを実施しています（参加者 15 人～25 人）。</p> <p>活動は月に一回（会長さんが皆のスケジュールを聞いて皆が集える日曜日）行っています。サロンのような話し合いの場として、職場での出来事や家族旅行、今思っていることなどについて、全員に語ってもらっています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>唐沢氏は、長年にわたる障害者やその家族との相談業務から、余暇の有効活用や学びの場、交流の場の必要性を感じ、2003年に当事者の会を立ち上げました。参加者の主体性を大切にしながら、個人のボランティアとして、月1回のサークル活動の運営や学習を17年間にわたり支援しています。</p>
③活動の効果等	<p>休日に仲間と一緒に余暇を楽しむことやアットホームな雰囲気の中で交流することで相互協力の大切さを学んだり、自分を表現することの喜びを体験できたりと、参加者の社会生活や職業生活を支える大きな励みや原動力となっています。</p> <p>また、唐沢氏主導の活動の中で作成した絵画等について、サン フラワーの展覧会を開催したり、障害者雇用月間ポスター原画コンテストに応募して奨励賞を受賞したりと、参加者の可能性が広がるよう支援しています。</p>

活動の様子

	
一緒に絵を描きながらいろんなことを話します	学びながらの交流は、楽しみの1つです

プロフィール	
活動地	群馬県吾妻郡嬭恋村
団体名	社会福祉法人嬭恋村社会福祉協議会
活動名称	障害者余暇活動支援事業 (カラオケ・アトリエもく・『ダンス・ダンス・ダンス』・なかよしクラブ)
PRポイント	自分の楽しみを見つけよう！
連携している団体等	小学校、公民館、NPO 法人、行政(保健・福祉部局)

功労者表彰	
活動分野	学習、スポーツ、文化芸術
主な対象	障害種問わず(主に知的障害)
団体の規模	事務局員 52名

活動の説明	
①活動内容	<p>①カラオケ：毎月第1土曜日に長野原町社会福祉協議会を会場にカラオケを実施しています。</p> <p>②アトリエもく：毎月第2土曜日に嬭恋村立東部小学校の図工室で絵画・書道等のアート活動を行っています。村の文化祭や県の障害者作品展への出展、独自の展示会も開催しています。</p> <p>③ダンス・ダンス・ダンス：毎月第4土曜日に嬭恋村立東部小学校で、ダンス教室を開催しています。病院の七夕・クリスマスコンサートや各イベントにも参加をしています。</p> <p>④なかよしクラブ：ボウリングやバーベキュー・クリスマス会・バス旅行等を季節毎に開催しています。</p> <p>嬭恋村社会福祉協議会で始めた活動ですが、現在は近隣の長野原町社会福祉協議会・草津町社会福祉協議会の共催で、当事者や保護者、ボランティア、社会福祉協議会関係者で活動を行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>発達障害や自閉症などの子どもをもつ保護者や、関心のある保護者の交流の場の必要性から「なかよしクラブ」が始まり、2001年から「アトリエもく」、2013年からは隣の長野原町との共催で「カラオケ」による交流会を開催しています。嬭恋村社会福祉協議会のスタッフの他にも、数多くのボランティアを募り活動を支援しています。</p>
③活動の効果等	<p>余暇の有効活用のもと、学びの場での様々な体験活動を通して、参加者は楽しむだけでなく生活に必要な知識や共同生活のルールなどを学んでいます。また、ダンスや絵画などでは、発表の機会をすることで意欲的に参加できています。当事者だけでなく、保護者にとっても貴重な交流の場となっています。</p>

活動の様子	
	
福祉フェスティバルに参加 (ダンス・ダンス・ダンス)	アトリエもく

プロフィール

活動地	埼玉県川口市
団体名	る・ばる・デ川口
活動名称	障害者の余暇活動（フォークダンス）
PRポイント	ダンスの好きな青年あつまれ！ ダンスを通して交流を！
連携している団体等	公民館、社会教育関係団体、文化芸術活動を行う団体

功労者表彰

活動分野	スポーツ・文化芸術
主な対象	知的障害児・者
団体の規模	総会員 100名 役員 15名

活動の説明

①活動内容	<p>「る・ばる・デ川口」は知的障害児・者を対象に、みんなで楽しく踊ろうという趣旨で発足したフォークダンスサークルです。社会人・特別支援学校生徒・中学生を含め、80名ほどの会員、ボランティア、保護者が月2回、土曜の午後、川口市中央ふれあい館にて活動しています。「る・ばる」はフランス語でダンスホール、舞踏会を意味します。文字通り「川口のダンスホール」で、ダンス曲が流れ、みんなで楽しく踊る場となっています。月2回の例会の他に、合宿、クリスマスパーティー、文化祭参加、海外の舞踊団の公演鑑賞等の行事があります。</p> <p>知的障害のある人にとっては、なかなかステップを正確に踏めない、人と関わることが苦手というハンディがありますが、それらに対する周囲の理解を得ながら、手をつないで踊ることが多いダンスを通して人間関係が広がり、自信を持って例会に参加しています（コロナ禍以降は3グループに分けた少人数で、手をつながない一人踊りのプログラムに変更して踊っています）。発足から20年が過ぎ、今では踊れる曲も少しずつ増えて、毎回楽しみながら、充実したサークル活動ができています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>卒業後の余暇活動の場として位置づいていましたが、今や会員の多くは30代から40代です。今は踊る楽しさだけでなく、仲間とのお喋りも楽しみの一つとなっていて、例会以外でも友達と会う機会を持てるようになった会員もいます。職場とは異なる仲間との交流は、障害の有無に関わらず世界が広がるものです。また、保護者やボランティアの協力は欠かせませんが、少しずつ、会員自身で会の運営も行えるようにしています。2年ごとに役員（会長、副会長、班長等）の改選を選挙で行い、毎回の飲み物の購入、片付けは班単位で行うようにしました。また、「る・ばる・デ川口」の活動をより充実したものになるよう、ボランティアダンス研究会を立ち上げ、支援体制を整えています。</p>
③活動の効果等	<p>生涯にわたってダンスを楽しむ機会とするだけでなく、ダンスを通じた交流もねらいとしているため、コミュニケーションの苦手な知的障害児・者の社会参加の一助となっています。</p> <p>ダンスという優れた文化活動を通して、仲間をつくり豊かな社会生活を送れるよう、今後も活動していきたいと考えており、会員やボランティアの募集、活動内容の紹介等はホームページを活用し、発信・普及を行っています。</p>

活動の様子

	
例会風景（手をつなぎながら、皆で楽しく踊っています）	コロナ禍での例会は、3グループに分かれて活動中

プロフィール	
活動地	千葉県野田市
団体名	サンスマイル実行委員会
活動名称	「ふれあい広場サンスマイル」
PRポイント	「みんなちがって、みんないい」をテーマにしています。
連携している団体等	小学校、中学校、PTA、社会福祉法人、行政(教育委員会、保健・福祉部局)、その他(障害者当事者団体、障害者支援団体)

功労者表彰
活動分野
文化芸術
主な対象
障害種問わず
団体の規模
会員 29名

活動の説明	
①活動内容	<p>平成2年7月からノーマライゼーションの考え方のもとスタートした公演会ですが、現在では、毎年恒例の行事として定着し、30年間継続した公演会となっています。合唱、創作ダンス、手話コーラス、演奏、朗読、市内小・中学生による吹奏楽演奏、太鼓演奏等を障害の有無にかかわらず、多くの参加者が同じ舞台上、同じ目標に向かって活動を共にして交流を深めるとともに、日頃の練習の成果を発表しています。運営にも、多くの一般市民がボランティアとして参加しており、出演者ととともに公演会を盛り上げています。</p> <p>また、公演会を盛り上げるため、野田のまつりの音頭「のんちゃん音頭」をみんなで踊っており、実行委員会では、その振付指導のために参加障害者団体を訪問しています。</p> <p>長年の取組から、地域全体への波及は十分な状況ですが、市内の小学生を対象に、広く障害者理解教育を推進していくために、野田市を4つの地域に分け、毎年一つの地域の小学校に参加してもらい、共に活動をする機会を設けています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>ノーマライゼーションの考え方のもと、「障害がある人となない人がふれあい、交流を深めることにより、生きる喜びと人間のすばらしさを感じる」ことを目的とし、平成2年から1年に1回の公演会開催を目指して、実行委員会を中心に準備をし、運営を行っています。事務局は、8名と少ないですが、連携している各団体の代表者が集まり、多くの団体の支援を基にした活動計画となっています。また、当日の運営には、多くの一般市民がボランティアとして参加しており、出演障害者約300と観客が一体となった公演会を作り上げています。</p>
③活動の効果等	<p>第1回(平成2年7月)の開催時には、参加団体は5団体、連携団体は4団体でスタートした公演ですが、30年という長きにわたり活動を継続し、今では、参加団体、連携団体、来場者を含め約1,100名が集う公演会になりました。また、障害の有無を問わずに、共に楽しむ学びの場を設けたことは、障害者が生涯にわたり学んでいこうという意欲を喚起するとともに、地域の「障害者理解」や「福祉の増進」に大きく貢献しています。</p>

活動の様子	
	
「のんちゃん音頭」をみんなで踊ろう！	心を一つに！笑顔になあれ！

プロフィール

活動地	千葉県市川市
団体名	特定非営利活動法人 いちかわ市民文化ネットワーク
活動名称	「チャレンジド・ミュージカル (ハンディキャップド・ミュージカル)」
PRポイント	障害のある人もない人も、子どもも大人も、一緒になって創る・楽しむ「チャレンジド・ミュージカル」
連携している 団体等	保育所、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校、大学、PTA、社会教育関係団体、NPO法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政(教育委員会、保健・福祉部局、文化部局)、その他(千葉県文化振興財団、市川市文化振興財団)

功労者表彰

活動分野	文化芸術
主な対象	障害種・障害の有無問わず
団体の規模	正会員 123名 一般会員 43名 理事 13名

活動の説明

①活動内容	<p>「芸術文化活動による市民交流とまちづくり」を目的に、平成17年から市川市を舞台に、障害者による本格的ミュージカルに挑戦しています。</p> <p>障害の有無や世代、性別を超えオリジナルミュージカルを創り、隔年で実施されている公演会に向けて稽古をしています。公演には、毎回、約80名から100名が出演しています。出演者や支援者は、市内外を含め、知的障害者や身体障害者が約70%、健常者や出演者家族等が約30%の割合で参加しており、共に同じ目標に向かい、充実した活動を行っています。</p> <p>また、「面白い活動は人を街を元気にする」をモットーに、障害者の活動支援や住民交流等の多様な自主的な活動を市川市内中心に展開し、共生社会の実現に向けて取り組んでいます。また、県の補助事業にも積極的に参画し、「障害者アート支援センターHONGERA!」を開設するなど、市内の障害者への学びの支援についても取り組んでいます。</p>
②活動の経緯・体制	<p>平成14年から「いちかわ市民ミュージカル」の活動を開始し、平成17年から「チャレンジド・ミュージカル」を立ち上げ、15年継続して本格的ミュージカルに挑戦しています。</p> <p>市川市と千葉県の文化振興財団の共催で、市川市内と千葉市内で隔年開催しています。活動は、月2回(日曜)の稽古を中心に取り組み、公演間近になると毎週土曜・日曜に稽古をしています。演出や音楽・振付け等の芸術面の指導や舞台スタッフは専門家が担い、衣装や大道具制作等は市民スタッフが担当し、障害者の家族や地域の学生等はボランティアとして参加し、公演を盛り上げています。</p>
③活動の効果等	<p>障害者とその家族が、稽古や公演を通し、障害の有無や世代、性別を超え交流する機会となっていて稽古や公演から生活の楽しみ、やりがい、生きがいを感じることができ、多くの障害者が活動を続けています。</p> <p>障害者が本格的なミュージカルにチャレンジし、稽古や公演会に取り組む姿は、周囲の人や観客に感動を与えており、新しく加入する障害者や観客も増えています。また、取組への支援の輪も広がっており、「共生社会の実現」や「卒業後の障害者の学び」の広がりを作っています。</p>

活動の様子



稽古風景、みんなで思いを一つに！



お七音頭！

プロフィール	
活動地	東京都板橋区
団体名	板橋区ダウン症児・者親の会「ほほえみの会」
活動名称	ぽこ・あ・ぽこ（音楽活動）
PRポイント	知的障害があっても生涯学習は大切！！
連携している団体等	大学、PTA、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）

功労者表彰
活動分野
学習、スポーツ、情報保障
主な対象
知的障害（ダウン症）
団体の規模
会員 約 130 名

活動の説明	
①活動内容	<p>平成 17 年から音楽講師の指導の下、模倣が上手なダウン症児の特徴を生かし、月に 1 回 2 時間程度ハンドベルの練習をしています。ハンドベルとともに、リトミックや手話ダンスも取り入れています。板橋区主催の障害者週間記念行事「みんなのふれあいコンサート」をはじめ、特別養護老人ホーム・福祉園・作業所・企業等、数々のイベントで練習の成果を披露しています。特に民間企業が主催するコンサートでは板橋区立文化会館大ホールにて、リハーサルから参加し、本格的な披露となっています。</p> <p>音楽活動以外にも交流会や様々な勉強会を実施しています。知的障害への理解促進のために区内大学の学生と一緒にスポーツをするなど、各団体との連携も密に取っています。また、少しでも多くの知的障害を持つ子の保護者の不安を解消するために、社会福祉協議会の行う事業にも登録し、会員外の方の参加も受け付け、情報交換を行っています。</p>
② 活動の経緯・体制	<p>ダウン症をはじめ、知的障害を持つ子の保護者が一日も早く子育てに意欲的に向き合い、そして笑顔になれるようにと発足されました。当初は、保護者の交流会として、育児の情報交換や不安解消を目的として活動していましたが、保護者の中に音楽講師がおり、平成 17 年から音楽活動を本格的に開始しました。今では交流会等の例年行っていた各種イベントを継続しつつ、月に一度音楽練習を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>当初は一人での参加が難しかった子どもが活動を継続する中で、保護者から離れての指導が受けられるようになりました。学校や職場とは違う活動を通して、子どもが自信をつけて何事にも取り組みやすくなっています。何よりも、日々の練習を通して学校や職場以外の仲間に出会うことが、子どもの日常生活への活力となっています。また、保護者も練習に付き添う事で、親睦が図れ、育児の情報交換や不安解消の良い機会となっています。</p>

活動の様子	
	
民間企業主催コンサート出演時 文化会館正面玄関にて	民間企業主催コンサート 出演風景

プロフィール

活動地	東京都葛飾区
団体名	きさらぎジュニア
活動名称	「きさらぎどんぐり」「きさらぎジュニアミニ」 「きさらぎジュニアボランティア」
PRポイント	障害の有無、老若男女にかかわらず、みんなで活動！
連携している団体等	小学校、スポーツ団体、企業・事業所、 行政(教育委員会)、その他(日本フロアホッケー連盟、 東京都フロアホッケー連盟、勇気の翼インクルージョン)

功労者表彰

活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害 児童
団体の規模	会員 48名 スタッフ 4名 役員 12名 ボランティア 11名

活動の説明

①活動内容	<p>きさらぎジュニア創部のきっかけとなったミニバスケットボールについては、葛飾区バスケットボール連盟との連携により競技人口を増やし、現在も毎年、ミニバスケットボールの大会を開催しています。</p> <p>2005年、スペシャルオリンピックス冬季世界大会を機に日本フロアホッケー連盟が創設され、ユニバーサルスポーツの理念に共感したきさらぎジュニアもここに加盟しました。現在も区内において普及活動を行うほか、全国大会や都大会にもボランティアとして運営に携わっています。</p> <p>ほぼ同時期に、中学校体育に「ダンス」が導入されたことで、卒部生が講師となってヒップホップの取組を開始し、健常者と障害者が一緒に楽しむとともに、他のイベントでも積極的に出演しています。</p>
③活動の経緯・体制	<p>昭和60年、小学校体育にミニバスケットボールが導入されたことを機に、ミニバスケットボールクラブ「きさらぎジュニア」を立ち上げました。その際、特別支援学級の子どもたちの居場所がないことに心を痛めていた指導者がこの4人を誘って、健常児と障害児が共に活動を始めました。この体制を創部以来35年、保護者やボランティアの協力もあって、現在も総勢78人が活動を継続しています。</p>
③活動の効果等	<p>インクルージョン社会の創設に向けた長年の活動により、これまで800余名の卒部生がここで身につけたことを活かし、社会での活躍につなげています。そして、現部員もこの理念をしっかりと受け継ぎ、日々の体づくりとコミュニケーションづくりに励みながら多くの経験を積み、やがて社会の一員として活躍することを夢見て頑張っています！</p>

活動の様子



フロアホッケーの活動



ヒップホップの活動

プロフィール

活動地	東京都武蔵野市
団体名	公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団
活動名称	障害者が日常的にスポーツ活動を行う場の提供と 障害者スポーツの普及・啓発事業
PRポイント	ココロ・カラダ、あしたも元気に。
連携している 団体等	スポーツ団体、福祉施設、企業・事業所、行政(教育委員会、保健・福祉部局、企画調整課オリパラ担当)、その他 (スポーツ推進委員、武蔵野市スポーツボランティア)

奨励者表彰

活動分野	スポーツ
主な対象	障害種別問わず(主に知的障害・視覚障害・肢体不自由・精神障害等)
団体の規模	職員 51名 嘱託職員 69名 再雇用職員 2名

活動の説明

①活動内容	<p>【障害者がスポーツを楽しめる機会の充実】</p> <p>平成25年度から「障害者スポーツ教室」、平成28年度から「ユニバーサルスポーツ教室」の実施に取り組み、平成31年4月からは「障害者のためのスポーツ広場」を開始しています。この事業は事前申し込み不要で自由に来場し、様々な種類のスポーツ・レクリエーションができる場であり、障害者スポーツをイベントから日常へ転換させるユニバーサルスポーツ社会を見据える新たな取組となりました。</p> <p>【健常者が障害者スポーツを体験する機会の充実】</p> <p>平成28年度から「ワンデーレッスン シルバースポーツランド」にポッチャを取り入れています。福祉施設のおまつりには健常者も障害のある方も参加できるポッチャ体験コーナーを開設し、地域との連携を図っています。</p> <p>【障害者スポーツ指導員の養成】</p> <p>平成30年度からポッチャサポーター講習会を主管し、市民が身近な場所で指導者資格を得られる機会を提供するとともに、受講者がポッチャの普及活動を継続的にできるようにポッチャ貸出しの仕組みを新たに作りました。</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>平成23年11月、(公財)武蔵野生涯学習振興事業団の経営方針に「参加や継続が困難な方向けの事業の展開」を掲げ、幅広い世代、障害の有無に関わらず多くの人にスポーツ活動の場を提供することを目指しました。平成24年度から職員は初級障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講し、東京都障害者スポーツ協会との協議や東京都障害者総合スポーツセンターへの視察など重ね、平成25年度に初めての障害者向けプログラムの開催に至りました。現在も新任職員は障がい者スポーツ指導員資格を取得しています。</p>
③活動の効果等	<p>「外出する機会が増えた」(障害者スポーツ教室の参加者)、「利用者から『また行きたい』との声が出ており、作業所での仕事の励みになっている」(障害者のためのスポーツ広場への引率の福祉施設職員)等の感想が寄せられています。東京都が作成した「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」には同事業団が管理・運営している総合体育館がハード面・ソフト面の事例として取り上げられ、地域の障害者スポーツを普及する要となっています。</p>

活動の様子



障害者スポーツ教室 (ジュニア水泳)



障害者のためのスポーツ広場

プロフィール	
活動地	東京都東村山市
団体名	東村山音訳の会
活動名称	東村山音訳の会
PRポイント	正しい音訳、聞きやすい音声表現を目指しています。
連携している団体等	社会福祉法人、行政

功労者表彰
活動分野
情報保障
主な対象
視覚障害
団体の規模
会員 38名

活動の説明	
①活動内容	<p>音訳ボランティア活動を通じ、視覚障害者等の福祉の向上に寄与することを目的としています。主な活動は、図書館での対面朗読、図書資料の音声化、行政情報の音声化です。市報や市議会だよりを音声化した声の市報「はと」は2016年12月に通算1000号を迎え、現在も継続中です。希望者に郵送するだけでなく、市ホームページでも「声の市報ひがしむらやま」、「声の市議会だより」として公開されています。</p> <p>このほかに、社会福祉協議会の「福祉だより」、市の防災ガイドマップ、選挙公報の音声化も行っています。会員は、図書館が主催する各種講習会に参加するほか、テーマを決めて月に1回自主勉強会も行い、音訳技術の向上やデジタイズ機器操作の習得などに積極的に取り組んでいます。</p>
②活動の経緯・体制	<p>1975年に、図書館が行う視覚障害者サービスへの協力を目的として「東村山朗読研究会」として発足、2013年に「東村山音訳の会」に改称しました。ほぼ5年おきに図書館が音訳ボランティアを募集し、その基礎講習会の受講終了者が会員となるほか、経験者は随時受け入れています。現在はデジタル録音資料作成が主ですが、テープ録音時代からの会員もいるので、テープで聞きたい方の要望にも対応しています。</p>
③活動の効果等	<p>図書館利用者が希望した資料や、地域にゆかりのある資料を音声化した録音図書や雑誌は、2016年から国立国会図書館にもデータを提供し、市民だけでなく広く全国の視覚障害者にダウンロード利用されています。月刊誌『図書』は1989年から音訳を続けており、国会図書館でのダウンロード回数も多く会員の励みにもなっています。また、声で伝えることの実践として、市内高齢者施設で短い朗読会を開催しています。</p>

活動の様子	
	
市報録音のための打合せ風景	感染症対策をして、対面朗読を行う様子

プロフィール

活動地	神奈川県秦野市
氏名	赤坂 美保子
活動名称	パラスポーツ教室の開催等普及啓発の促進
PRポイント	障害者スポーツの理解と普及促進を目的に、 「パラスポーツ教室」を毎月1回開催（参加費無料） はだのパラスポーツフェスティバルや フライングディスク大会の運営
連携している 団体等	特別支援学校、児童館、スポーツ団体、行政（保健・福祉スポーツ部局）、社会福祉協議会、障害福祉団体

功労者表彰

活動分野
スポーツ
主な対象
障害種問わず

活動の説明

①活動内容	<p>障害者スポーツの理解と普及促進を目的に、神奈川県障害者スポーツ指導者協議会秦野支部として「パラスポーツ教室※」を毎月1回開催している他、パラスポーツフェスティバル（車いすバスケ、ブラインドサッカー、ボッチャ、ユニカールなどを実施）やフライングディスク大会を通じて、初めて障害者のスポーツに参加する方に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援しています。</p> <p>※「パラスポーツ教室」＝神奈川県障害者スポーツ大会参加の選手育成及び体験活動（軽スポーツで、どなたでも参加可能、ご家族での参加も歓迎、毎月1回開催）。秦野支部の種々の活動に対する令和元年度の参加者数は、延べ1,218名。</p> <p>この他、神奈川県障害者スポーツ指導者協議会の事務局長を2002年から2020年3月まで務め、会の発展に寄与しました。現在も、神奈川県障害者スポーツ指導者協議会の理事に在任中です。</p> <p>2012年からは神奈川県障害者施策審議会の委員として、障害当事者及び女性委員の登用を期待され、今年度も当協議会の代表者として施策審議会委員に推薦されました。</p> <p>こうした障害者スポーツへの関わりから、2016年4月に発足した公益財団法人秦野市スポーツ協会に、理事として当初から選出されています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>神奈川県障害者スポーツ指導者協議会に所属し、2000年4月に秦野支部を結成して支部長を務め、現在に至ります。</p>
④活動の効果等	<p>秦野市では、障害者スポーツの偏見は消滅し、市民一般、行政からも信頼されて広く理解を得られています。また、神奈川県域においても、秦野市といえば障害者スポーツに親しみ、理解の広がりを得ている地域と認識されています。</p>

活動の様子



はだのパラスポーツフェスティバルの様子



パラスポーツ教室の様子

プロフィール

活動地	神奈川県茅ヶ崎市
団体名	公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団 茅ヶ崎市美術館
活動名称	茅ヶ崎市美術館 企画展「美術館まで（から）つづく道」 ～インクルーシブデザインの手法を活用した フィールドワークを表現へ～
PRポイント	多様な人との関わりから創出された作品による 美しい体験は、バリアそのものを融解させた
連携している 団体等	社会教育関係団体、NPO 法人、 文化芸術活動を行う団体、企業・事業所、 その他（当事者個人）

奨励者表彰

活動分野	文化芸術
主な対象	障害種問わず (主に視覚障害・肢体不自由等)
団体の規模	職員 18名

活動の説明

①活動内容	<p>○インクルーシブデザインの手法を活用し、聴覚障害者、視覚障害者、盲導犬ユーザー、車椅子ユーザー、幼児、ベビーカーユーザーとアーティストや研究者が、美術館周辺で一緒にフィールドワークを実施し、その気づきを表現へとつなげる展覧会を企画しました。</p> <p>○障害を障害として捉えるのではなく、その人の感覚や特性に焦点をあてる意味で、障害当事者の方は、「感覚特性者」という位置づけで活動に加わり、アーティスト等の表現者は、「感覚特性者」とともに地域を歩いた体験をもとに作品を創作しました。</p> <p>○美術館で頼ることの多い視覚のみならず、聴覚、触覚、嗅覚等あらゆる感覚を用いて鑑賞する新たな作品を展開しました。</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>○2016年4月より立ち上がった神奈川県内の4つの美術館とかながわ国際交流財団により、定住外国人や障害者の美術館へのアクセシビリティを高めることを指針とするプラットフォーム型のアートプロジェクト「MULPA（マルパ）」に参加しています。</p> <p>○弱視の方が茅ヶ崎駅から美術館までの複雑な道のを「迷路のように楽しんだ」と発言したのをきっかけに、美術館周辺のエリアが抱える道が分かりにくいという要素を、多様な人とともに、異なる認識、価値観から捉える試みをスタートさせました。</p>
③活動の効果等	<p>○フィールドワークを通じて見えてきたのは“誰かと歩くと一人一人感覚が異なるから面白く同じ道でも違う世界に見える”ということでした。そして、完成した作品には五感に訴えかける多くの要素が取り込まれ、自己の感覚を研ぎ澄まし、多様な物事や他者とどこまで向き合えるかを人々に問う展覧会となりました。</p> <p>○展覧会は、各分野から高い関心を持って頂き、他館、企業、大学等から、研修や視察がありました。その結果、他館や企業等でも、当館の試みであった「音声読み上げに対応するQRコード」の設置、「手で触れられる物」の展示、盲導犬ユーザーとともに作成した「言葉の地図」等をご自身の活動に取り入れたとのご連絡がありました。</p> <p>○展覧会の活動を通じて、障害の有無を超え、違いを認め合い、ともに歩むことを楽しみ、その価値を捉え直す機会を、美術館という場からも創出していけたらと思います。</p>

活動の様子



フィールドワークの様子 (photo:kenji kagawa)



展示の様子 (photo:kenji kagawa)

プロフィール

所在地	新潟県新潟市
団体名	特定非営利活動法人 新潟県高度情報社会生活支援センター
活動名称	情報のバリアフリー
PRポイント	障害者を対象としたパソコン教育、 職業訓練、就労支援
連携している 団体等	特別支援学校、大学、専修学校・各種学校 行政、社会教育関係団体、障害者団体連合会

功労者表彰

活動分野
学習、情報保障 その他(社会参加サポート)
主な対象
すべて
団体の規模(団体の場合のみ)
職員 7名 支援者 350名

活動の説明

①活動内容	<p>新潟県高度情報社会生活支援センターは、平成12年に設立され、現在に至るまで、障害者を対象に情報弱者をなくす取組として、定期的にパソコン操作を教え続けています。</p> <p>また、国や県、新潟市と連携したパソコンのスキル向上支援の他に、社会参加に直接つながる職業訓練や就労移行型事業も取り入れた活動も行っています。</p> <p>上記の活動に付随して、就職後の相談や定期的な様子の確認をするほか、障害のある子どもをもつひとり親家庭の支援、重度障害者の施設の野外体験活動支援、若者のひきこもり支援等の社会活動も行っています。これらの活動を含め約340人の支援を行っています。</p> <p>その一方で、余暇の交流活動にも力を入れ、春の山菜シーズンには、障害者と新潟市の子どもたちが一緒に山へ行き、山の人たちと山菜採りや遊びの道具を作ってふれ合う「春の山の自然体験事業」や、山の人たちや障害者施設の子どもたち、職員が新潟市の浜へ行き、地引き網体験をしたり採れたての魚を調理したりして、自然の大切さを体験しながら感じてもらう「夏の海、楽しい地引き網大会」を実施しています。その他にも山の運動会参加事業やサッカー観戦事業など、健常者と障害者が同じ目的をもってふれ合う楽しさや、自然のすばらしさを体験する活動を継続して行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>理事長と6人の職員が、一人ひとりの課題に合わせたカリキュラムで通所している7人の障害者を支援したり、就職後の支援活動等を行ったりしています。</p>
③活動の効果等	<p>受講者は、インターネットによって情報を得ることができるようになったり、文字によるコミュニケーションができるようになったりしたほか、タブレットを使って買い物をすることができるようになったりと、日常生活の豊かさが増し、充実感が高まっています。</p> <p>普段、屋外へあまり出かけることができない障害者にとって、余暇活動で山や海へ出かけて自然とふれ合ったり、人とふれ合ったりすることで、日常生活では得られない感動や喜び、新たな生活の活力を得ることができています。同時に、健常者とのさまざまな交流事業をとおして、障害についての理解の促進にもつながっています。</p>

活動の様子



パソコン学習の様子



余暇の交流活動の様子

プロフィール

活動地	富山県高岡市
団体名	特定非営利活動法人 障害者アート支援工房ココペリ
活動名称	・知的障害のある人を中心とした美術文化活動の支援 ・ワークショップや展覧会の開催による普及活動
PRポイント	【創る人も支える人も、アートを味わい、互いに関わる中でそれぞれの光を見つけ、共に豊かになっていく！】 表現によって生きる人、生かされる人、上手になりたい人、それぞれの感性に合わせたサポートによって、その人だけの表現、その人だけの人生、生活づくりのお手伝いをしたいと思っています。
連携している団体等	NPO 法人、行政(保健・福祉部局)、各県の障害者芸術文化活動支援センター、県内外福祉事業所、特別支援学校

功労者表彰

活動分野	文化芸術
主な対象	知的障害
団体の規模	職員 3名 会員 11名 (内支援対象者は10名)

活動の説明

①活動内容	<p>【知的障害のある人の絵や造形の創作活動の支援】 知的障害のある人が特別支援学校卒業後も継続して創作活動に取り組むことができる場を提供し、作家の自己実現や社会参加につながる支援を行っています。</p> <p>【障害者アートの普及啓発】 活動状況の紹介や作品発表の場として、定期的に住民参加型のワークショップを開催しています。また、展覧会を開催し、地域における障害者アートの普及啓発活動を行っています。2019年に開催した「和臼・作美・素生の表現者たち ボーダレス・アート in 勝興寺」には、約1,700人の方が来場されました。</p> <p>【富山県障害者芸術活動支援センター ぱーと◎とやまの運営】 障害のある人の芸術活動に係る人材育成、相談支援、ネットワークづくり、発表機会の創出等に取り組み、障害のある人の芸術活動の拠点としての活動を展開しています。</p>
②活動の経緯・体制	富山県立高岡支援学校美術部 0B を中心に結成した、知的障害のある人の美術活動支援を目的とした絵画グループが2009年にNPO法人化し、作品発表、相談支援、交流活動の取組を始めました。2018年、県全域を対象とした富山県障害者芸術活動支援センター ぱーと◎とやまを開設しました(県事業)。現在は正規職員2名と非常勤職員1名のほか、ボランティアの方々とともに、創作活動に励んでいます。
⑤ 活動の効果等	展覧会の入場者数や研修会などの参加人数が年々増えており、障害者の文化芸術活動の支援により、県内での障害者アートの認知度の高まりが実感されます。公募展において所属作家の作品が入賞することもあり、作家の自己実現や社会参加にも大きく貢献しています。今後の活動を通じて、障害のある人が美術を通じて地域社会とつながり活躍すること、社会包摂への意識が高まっていくことが期待されます。

活動の様子

	
作品発表の機会創出事業「Mochicon展」の様子	創作活動支援「ワークショップ」の様子

プロフィール	
活動地	福井県福井市
団体名	のびのびカルチャー講座
活動名称	障がい者の学習・スポーツ・文化等の余暇活動支援
PRポイント	学校卒業後の余暇活動を通した 生きがいづくり&仲間づくり
連携している 団体等	特別支援学校、NPO 法人、その他(社会福祉センター)

功労者表彰	
活動分野	学習、スポーツ、文化芸術
主な対象	知的障害
団体の規模	会員 61 名 事務局員 2 名

活動の説明	
① 活動内容	<p>特別支援学校の卒業生を中心とした会員 61 名を対象に、学習活動やスポーツ・文化等の余暇活動の講座を開設し、障がいの特性に合った活動を実施しています。</p> <p>【講座】6講座 ・英会話教室 ・サッカー教室 ・生活教室 ・ダンス教室 ・カラオケ教室 ・ウォーキング教室 (※過去には、美術教室、茶道&マナー教室、音楽教室、水泳教室、詩吟教室等も開設)</p> <p>【開催回数および場所】 月 1 回 (年間 12 回程度) 特別支援学校や社会福祉センター等の公共施設</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>平成 5 年から活動を開始し、27 年間にわたり活動を継続しています。平成 5 年当初は、特別支援学校卒業生の親の会が主体となって、県の委託助成金事業を受けながら運営してきました。平成 19 年からは、NPO 法人内に事務局を置き、講師 10 名を含めたスタッフ 12 名で自主財源にて運営しています。</p>
③活動の効果等	<p>知的障がいのある児童生徒の卒業後の余暇活動の一環として、定期的かつ継続的に活動することにより、当事者の生きがいや仲間との交流につながっています。</p>

活動の様子	
	
ダンス教室 (「はぴりゅうフェスタ」でのダンス披露)	サッカー教室 (ボールタッチの練習の様子)



プロフィール		功労者表彰	
活動地	福井県福井市	活動分野	情報保障
団体名	ボランティア朗読友の会	主な対象	視覚障害
活動名称	図書・雑誌・新聞等の音訳奉仕活動、対面音訳活動	団体の規模	スタッフ 9名
PRポイント	音訳図書の製作や対面音訳を通じた視覚障がい者への情報保障ボランティア		
連携している団体等	図書館、その他(福井市社会福祉協議会)		

活動の説明	
①活動内容	<p>【図書・雑誌・新聞等の音訳奉仕活動】</p> <p>福井県の地方紙『福井新聞』のコラム「越山若水」、NHK テキスト『きょうの料理』のほか、福井市社会福祉協議会発行「まごころ(社協だより)」の音訳図書を製作し、福井県立図書館から全国の利用者に貸し出しています(点字図書館12館、個人4名)。</p> <p>【対面音訳活動】</p> <p>県内の公立図書館利用者からの希望に応じ、対面音訳の活動を実施しています。</p> <p>【学習会】</p> <p>福井市中央公民館の自主活動として、月2回(第1・3金曜日)、発声・発音・アクセントなどの基礎的な訓練および機械操作の習熟、講師による質の高い音訳テープ作製のための学習会を実施しています。</p>
②活動の経緯・体制	昭和52年に公民館の朗読講座修了者の自主グループとして発足し、平成10年からは県立図書館と連携するなど、43年間にわたり活動を継続しています。スタッフ9名が、上記の活動のほか、月2回、発声等の基礎的な訓練など自主的な学習会を開催して、スキルアップに取り組んでいます。
③活動の効果等	長年にわたる音訳図書の製作・貸出や対面音訳の活動は、県内はもとより全国の視覚障がい者の情報取得の貴重な機会となっています。

活動の様子	
	
自主学習会の様子	フェスタで対面音訳の発表

プロフィール		功労者表彰	
活動地	山梨県	活動分野	情報保障
団体名	山梨青い鳥奉仕団	主な対象	視覚障害
活動名称	山梨青い鳥奉仕団	団体の規模	会員 229名
PRポイント	私は小さい青い鳥。 点字・声・文字を届けます。		
連携している団体等	小学校、中学校、図書館、社会教育関係団体、行政(保健・福祉部局)		

活動の説明	
①活動内容	<p>山梨青い鳥奉仕団では、点訳部、音訳部、写本部の三部により、長年にわたって視覚障害者に寄り添い、点字図書の製作などの情報保障支援と、視覚障害者の理解促進のための奉仕活動を続けています。</p> <p>点訳部は、点字図書の製作の他、小・中学校での点字教室、親子点字教室、イベントで点字体験コーナーを設置するなど、点字を通して地域住民に視覚障害への理解を促進し、点字の普及に努めています。</p> <p>音訳部は、隣接する県立盲学校や入所施設に出向いての朗読サービスや、各地域の公立図書館や社会福祉協議会等において、読み聞かせなどを行っています。</p> <p>写本部では、拡大図書の製作を行い、製作した図書を各地の公共図書館や視覚障害の方がいる老人施設に貸し出し、近隣のロービジョン（弱視者）利用者に喜ばれています。</p> <p>各部は、毎月研修会を行い、視覚障害者への情報提供技術の向上に努めています。</p> <p>また、視覚障害者の皆さんと交流会やレクリエーション活動などを行い、共生社会の実現を目指して、視覚障害者の社会参加への支援の輪を広げています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>昭和41年、視覚障害者向けの図書が不足していた当時の状況において、点訳奉仕を志すボランティア36名により「青い鳥奉仕団」が結成され、奉仕活動が始まりました。</p> <p>その後、昭和44年に写本奉仕者、昭和46年に録音奉仕者を加えて、「山梨青い鳥奉仕団」と名称を改め、昭和47年にはリーディング奉仕者を加えて、現在の点訳部、音訳部、写本部の三部により奉仕活動を続けています。</p>
③活動の効果等	<p>点訳、音訳、写本による奉仕活動を通して、視覚障害者の読書環境を支援することで、団員と視覚障害者が、ともに読書の喜びを分かち合い、相互の文化向上に努めるなど、視覚障害者の生涯を通じた学習活動を支えています。</p> <p>また、学校やイベントなどでの点字の体験教室などを通して、学校や地域住民への視覚障害者への理解を促進しています。</p> <p>さらに、他団体との連携を深め、幅広い世代に奉仕活動を広げています。</p>

活動の様子	
	
親子点字教室の様子	朗読発表会の様子

プロフィール

活動地	長野県長野市
団体名	長野市点訳グループてんとう虫
活動名称	視覚障がい者に対する点訳活動 点訳活動に関わる点訳者の育成
PRポイント	点字は6個の点の組み合わせ。普通の文字を点字に置き換える点訳は、単純そうでなかなか奥が深い。本好きならきっとその魅力にはまります！ボランティアを楽しんじゃおう！！
連携している団体等	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、PTA、文化芸術活動を行う団体、行政(教育委員会、保健・福祉部局)



功労者表彰

活動分野	学習
主な対象	視覚障がい
団体の規模	

活動の説明

①活動内容	<p>長野県内外の小・中・高校に通う、視覚に障がいがある児童・生徒の教科書等の点訳を継続して行っています。また、これまでに教科書・副教材・試験問題・参考書・塾のテキスト・資格取得テキストなど多岐にわたって点訳し、児童から大人まで幅広い年代に提供しています。最近では、教員の教科用指導書を点訳し、視覚障がいのある教員のサポートもしています。小・中・高校からの依頼により点字体験教室を行い、児童・生徒の視覚障がい者に対する理解を深めるとともに、啓発活動を行っています(年間10校程)。</p> <p>新聞医療面の記事、料理番組のテキスト、点訳グループが選んだ本を年間15冊程度点訳し、サピエ図書館にアップしています。また、個人からの依頼(プライベートサービス)や行政関係からの依頼にも応じ、幅広い分野で点訳活動を行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>視覚に障がいがある方々との交流会で「カラオケブックがあるといいなあ」という一言をきっかけに、昭和60年から点訳活動がスタートしました。以来、プライベートサービスを中心に活動をしてきましたが、全国ネットの「サピエ図書館」に点訳データをアップできるようになり、利用対象が広がりました。</p> <p>週1回、ボランティアセンターを拠点に点字作成物の校正、学習会等を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>教育活動に関わる教材等の点訳活動を通じて、視覚に障がいがある方への情報保障の重要性を広く教員や生徒に伝えることができます。</p> <p>小学校等で「点字体験教室」を行い、視覚に障がいがあるとはどういうことか、自分たちには何ができるのか等について子どもたちが主体的に考え合うきっかけを提供できています。</p>

活動の様子

	
一文字一文字確認をしています	毎週1回学習会を開いています

プロフィール

活動地	静岡県焼津市
団体名	焼津市くろしお青年学級
活動名称	焼津市くろしお青年学級
PRポイント	誰もが夢や希望を持って生涯を通して学び続ける活動
連携している団体等	特別支援学校、公民館、行政(教育委員会)、その他(焼津市手をつなぐ育成会)

功労者表彰

活動分野	学習、スポーツ、文化芸術、その他(旅行)
主な対象	知的障害
団体の規模	会員 43名 指導員 15名

活動の説明

①活動内容	<p>焼津市くろしお青年学級は、昭和63年5月に当時の養護学校など3校の卒業生16名が学級生になって始まりました。以来、特別支援学校の卒業生が楽しみをもって参加できる活動を、30年以上にわたって提供しています。現在では会員は43名に増えています。</p> <p>趣味や得意なことを広げるクラブ活動や大学での学び、体力保持につながるスポーツやハイキング、家庭生活につながる調理実習、公共交通機関を利用した映画鑑賞や美術館見学等、仲間との絆を作る活動、社会参加につながる活動を多岐にわたって行っています。また、最近では静岡大学主催の障害者の学びの場に参加する等、活動を広げています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>月に1~2回の計画で、年間15回程度の活動を実施しています。15人の指導者のうち、毎回5~6人が指導に当たっています。また、指導者とは別に、特別支援学校の教員がボランティアとして活動に協力しています。</p> <p>近隣市の青年学級や特別支援学校OB会、手をつなぐ育成会との交流スポーツ大会を20年以上にわたり続け、交流を深めています。近年は焼津市の公用バスを提供いただいたり、特別支援学校に活動場所を提供いただいたり、より多くの協力を得られることで活動の幅が広がっています。</p>
③活動の効果等	<p>楽しみながら学ぶ場を提供することで、参加しやすい活動になり、参加者が増えています。また、指導者にも参加者にも無理のないペースで活動することで、継続して活動を続けることができ、10年以上継続して参加している参加者もいます。</p>

活動の様子

	
調理実習	交流スポーツ大会に向けた練習

プロフィール	
活動地	愛知県岩倉市
団体名	岩倉市音訳の会 あめんぼ
活動名称	音訳活動
PRポイント	35年間という長年にわたり、岩倉市の視覚障がい者の方などに向け、音訳活動を行っています。
連携している団体等	小学校、図書館、行政(教育委員会、保健・福祉部局)、その他(市民活動支援センター、社会福祉協議会、東海音訳学習会)

功労者表彰
活動分野
学習、文化芸術
主な対象
視覚障がい
団体の規模
会員 26名 賛助会員 数名

活動の説明	
①活動内容	<p>【主な活動】</p> <p>広報音声版の作成(毎月1回) 録音図書作成(全98タイトル) 小中学校での福祉教育授業(4校)</p> <p>視覚障がい者等に対する理解・啓発イベントの協力 ボランティア養成講座(音訳)の開催運営協力(20回)</p> <p>音訳勉強会の開催(月3回ほど) 視覚障がい者と家族によるサロン活動への協力(月1回)</p> <p>会員宅のパソコンで録音をしています。ボランティア養成講座終了後も講師がサポートし、図書館蔵書の録音図書はわかりやすい録音物を作成するように心がけています。また、市図書館や社会福祉協議会などから会場等の支援を受けています。</p> <p>「音訳」の認知度が上がり、ボランティア養成講座も安定して開催しています。会員の音訳技術が向上し、視覚障がい者からのリクエスト図書の要望もありました。</p>
②活動の経緯・体制	<p>35年間、岩倉市の視覚障がい者の方などに向け、音訳活動を行っています。図書館蔵書録音図書は全95タイトル作成し、視覚障がい者並びに印刷物による読書困難者への生涯学習支援を行ってきました。国会図書館へ障がい者向け資料(デージー図書)の提供も行いました。</p> <p>また、岩倉市広報誌「広報いわくら」や岩倉市社会福祉協議会広報誌「みんなのふくし」の音訳版を作成しているほか、視覚障がい者の集いを行政・社協と連携して開催しています。さらに、聴覚障がい者と家族によるサロン活動への協力など、視覚障がい者の方や家族への支援も行っています。</p>
③活動の効果等	<p>現在、広報誌の音訳版を利用する視覚障がい者は少ないですが、市図書館と国会図書館との連携が始まったため、今後録音図書の利用が増えると予想されます。会の活動が新聞等で取り上げられ、福祉教育授業で子供たちが視覚障がいや音訳を理解する機会も多くなり、「音訳」の発展が期待できます。</p>

活動の様子	
	
定例会の様子	録音の様子

プロフィール

活動地	愛知県日進市
団体名	特定非営利活動法人 なかまの家
活動名称	「ともまなびセミナー」まちを学校に・・・ おもしろ体験子屋、ひかりの人々展
PRポイント	「みんなの笑顔が見たいから」 世代を超えて・違いを認め合い たのしもう
連携している 団体等	保育所、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、 高等学校、特別支援学校、児童館、公民館、図書館、 社会教育関係団体、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、 社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、 行政(教育委員会、保健・福祉部局)

功労者表彰

活動分野	学習、文化芸術
主な対象	障害種問わず(主に知的障害)
団体の規模	会員 15名 賛助会員 40名

活動の説明

①活動内容	<p>障害があろうとなかろうと、1人の人間としてあたりまえに生きるというノーマライゼーションの考え方を具体的な活動にするために「障害のある人も、子どもも高齢の方も大人も、みんながつながるやさしい街をつくる」ことをテーマにしました。文化、芸術、知恵や技術のあるこの街の大人の方々の力をお借りして、実体験を障害の方々や、子ども、お年寄りに伝えて頂きたいと呼びかけました。一人の講師の方の、「無償であることが美しいのです」との言葉が根っこになり、この活動が損得抜きのボランティアで行われ、つながってきました。毎年50を超える実体験講座が開かれています。障害の方々が一般の市民の皆さんの中に溶け込んでいただけるようにと、福祉施設の方々に後援を依頼し、パンフレットに★印で推薦講座を可視化したり、障害の方も踊れるような音楽を選び、フィナーレを企画する等、参加しやすい工夫をしています。一方、高齢の方には「連鶴を折ろう」「布ぞうりづくり」、子どもたちには「将棋をさそう」「和太鼓」「ミニカーを作って走らせよう」などそれぞれに魅力的な講座をしてくださる街の講師の方々を見つけては依頼しています。</p> <p>ひかりの人々展は、募集チラシを配布し、2年に1回作品を集めて展示しています。</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>市の教育委員会・学校課・校長会のご了承を得て、小・中学校に対し、先生方にお手数をかけることのないようにと学級ごとのチラシ枚数を組み、対面で配布するように各学校に出向き、挨拶と依頼にまわることを大切にしています。</p> <p>開催時期が来ると実行委員会が始まり、日常の事務局とコラボをして準備に取り掛かっています。ボランティア講師の教材費だけは、実費としているため、当日の50を超える講座の受付ボランティアが大切な役割を担います。その方々を集めるのが一苦労ですが、知人・友人等に声をかけて運営しています。</p>
③活動の効果等	<p>街の商店や企業の方々を回り、一口3千円の広告協力金を頂き、当日のパンフレットと会場に掲載しています。その他、物品販売や地域のイベント出店で運営資金を作っています。毎年参加して下さるボランティア講師の方の中に、来年は、どんな体験を伝えようかと「講師側の楽しさ」を味わってくださる方々も増えてきました。つながりが深まる感があります。</p> <p>ひかりの人々展では、障害のある方々の日常的な表現活動ができる場所を作りたいです。参加している子供たちの中で、将来この活動をつないでくれる人が出てきて「世代を超えてつながり、違いを認め合うやさしい街づくり」が進むように願っています。</p>

活動の様子



講座の一つのアイロンビーズを楽しむ様子



様々な世代の方が交流を深める様子

プロフィール

活動地	三重県四日市市
団体名	四日市市手をつなぐ育成会
活動名称	本人活動部会「ひながの会」「サクラ会」 「おんなのこくらぶ」「おとこのこくらぶ」
PRポイント	自分の好きなことを見つけよう、楽しもう
連携している団体等	その他(三重県障害者スポーツ指導員、ボランティア)

功労者表彰

活動分野	学習、スポーツ、文化芸術
主な対象	知的障害
団体の規模	会員 230名

活動の説明

①活動内容	当団体は障害のある方が興味関心のある活動を選択し、参加することで、障害のある方の生きがいや社会参画につながる取組を進めています。「ひながの会」ではダンスやカラオケ、「サクラ会」では貼り絵やハンドベルをしています。「おとこのこくらぶ」では、フライングディスク、バスケットボール等のスポーツ活動、「おんなのこくらぶ」では料理やスポーツ活動に取り組んでいます。バス旅行に行ったり、ボーリング大会やクリスマス会をするなど、友だちやボランティアの方との親交を深めています。
②活動の経緯・体制	当団体は、58年の活動年数があります。本人活動部会は、四日市市障害者体育館や四日市市のセンター等を利用し、三重県障害者スポーツ指導員、ボランティア・家族の協力を得て活動しています。
③活動の効果等	三重県障害者スポーツ大会において様々な競技に多数参加しています。その中で優秀な成績を収めた選手は、全国障害者スポーツ大会のフライングディスク、卓球、ボーリング競技に出場しています。 三重県障害者スポーツ大会に参加することを目標に練習に励む方や各種大会でダンスを披露、自分で料理をするようになった方もいます。今後も障害のある方の興味関心があることに取り組める場を提供することで、自主性や自信を得て、仕事や学校で生き生きと取り組める力となり、障害者の生涯にわたる学びを支えていきたいと考えています。

活動の様子



「ひながの会」ダンス



「おとこのこくらぶ」「おんなのこくらぶ」とこわかダンス

プロフィール

活動地	京都府綾部市
団体名	綾部市教育委員会教育部社会教育課
活動名称	綾部障害者青年学級、聴覚障害者成人講座、視覚障害者成人講座、綾部成人教室、難聴者成人講座
PRポイント	みんなイキイキ 思いを形に ～一人ひとりの夢と願いを実現～
連携している団体等	社会福祉法人、その他(ボランティア団体、障害者協会)

功労者表彰

活動分野	学習、スポーツ、文化芸術
主な対象	知的障害、視覚障害、聴覚障害
団体の規模	学級生 128名 担当職員 10名

活動の説明

①活動内容	<p>2007年度には、青年学級30名、成人教室13名、聴覚障害者10名、視覚障害者13名、難聴者12名を対象に年5～12回開催。2019年度には、青年学級40名、成人教室23名、聴覚障害者25名、視覚障害者28名、難聴者12名を対象に年3～11回開催しました。</p> <p>うどん・ピザ・お菓子づくり、書道教室、茶道教室、人権学習、綾部の歴史、スポーツ教室、ミュージックケア、社会見学(社会福祉施設等)、北部交流会、年末交流会、合同講座等、他分野にわたる講座を実施しています。</p> <p>視覚障害者成人講座、難聴者成人講座、聴覚障害者成人講座の受講生及びボランティアで構成したアイヤー合唱団(2008～2012)、視覚障害者成人講座受講生及びボランティアで構成したアイ・アイ合唱団(2013～2019)として市民合唱祭にも参加しました。</p> <p>特別養護老人ホームとの連携も図りつつ、福知山市との年末交流会(R1現在20回)、京都府北部地域の青年学級交流会(R1現在29回)を継続的に開催しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>15歳以上の障害者が現代的課題などの学習活動を通じて、仲間との連携及び障害者の社会参加の促進を図ることを目的に、計画的に学習しています。教育委員会と各講座代表者及び支援者が協力して講座・教室を運営しています。</p>
③活動の効果等	<p>学級生にとって、職場での悩みを定期的に交流できることが、魅力であり、心の支えになっているほか、明日への勤労意欲につなげる機会にもなっています。</p> <p>社会見学や他市との交流は、集団行動を考える良い機会であるとともに、参加者の楽しみとなっています。</p>

活動の様子

			
視覚障害者講座(健康体操)	青年学級(押し寿司づくり)	成人教室(ペン習字)	3講座合同(そば打ち)

プロフィール	
活動地	京都府与謝郡与謝野町
団体名	与謝野町障害者福祉会
活動名称	与謝野町卓球バレー大会
PRポイント	障害者スポーツから生涯スポーツへ レシーブ！トス！アタック！ 卓球バレーで共生の輪を
連携している 団体等	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、公民館、 社会教育関係団体、スポーツ団体、NPO法人、 社会福祉法人、病院・保健所、行政(教育委員会、保健・ 福祉部局)、その他(社会福祉協議会等)

功労者表彰	
活動分野	学習、スポーツ、 その他(会員間交流・福祉増進)
主な対象	障害種問わず
団体の規模	会員 87名

活動の説明	
①活動内容	会員の健康維持・社会参加への意欲向上・健常者との交流を目的として開催しています。障害者週間期間中の恒例行事として定着しており、障害の有無に関係なく、ゲームを通じて交流を楽しむという視点から、町の共生の風土を育む上でも、重要な事業となっています。平成30年度は全12チーム(6人1組)が参加しました(参加人数121名・スタッフを含む)。
②活動の経緯・ 体制	平成19年度から毎年、福祉会が主催となり、その他多様な団体が協力し、障害者週間の期間中に実施しています。
③活動の効果等	福祉会の会員間の交流・健康維持活動にとどまらず、町内の小学生、町職員、社協職員、議会議員なども参加し、幅広い交流の機会となっています。また、障害のある方のスポーツを通じた余暇活動の充実にもつながっています。 卓球バレーについては、単発ではありますが、地域各所、各種団体において実施されているほか、令和元年度は、江原会長が地元高校の総合的な探究の時間の外部講師として、地域と障害者スポーツの歴史について講演するなどの、普及啓発も実施しました。

活動の様子	
	
開会式 会長あいさつ	競技中のひとコマ

プロフィール

活動地	大阪府富田林市
団体名	甘南備広場
活動名称	甘南備広場
PRポイント	豊かな人のつながりをつくる生涯学習
連携している団体等	特別支援学校、PTA、その他(富田林ロータリークラブ)

功労者表彰

活動分野	スポーツ、文化芸術
主な対象	知的障害
団体の規模	PTA 366名 卒業生の保護者有志 50名

活動の説明

①活動内容	<p>【学校支援活動】 毎週木曜日昼休みに行う図書室開放では、読書ボランティア等による大型絵本の読み聞かせや紙人形劇、ヘルマンハーブ演奏会を実施しています。毎回10~15人の児童生徒が来室します。他に学校花壇の整備、校内緑化活動、ベルマーク活動等があります。</p> <p>【放課後等の居場所づくり】 安全で安心な休日活動として10月末土曜日の「ミニ運動会」(約250人が参加)、1月末土曜日の「スプリングコンサート」(約100人が参加)、スポーツフェスタ(50人)、富田林市市民マラソン(30人)、南大阪駅伝大会(30人)、成人を祝う集い(100人)、同窓会(200人)等を実施しており、地域の方や保護者、卒業生も多数参加しています。</p> <p>【防犯防災活動】 土砂災害警戒区域に立地する富田林支援学校は府立学校ですが、体育館が富田林市の指定避難所であり、台風による大雨等の際は避難されている人がいます。このことは、校内に防災対策委員会を立ち上げ、学校防災アドバイザーの助言のもと、富田林市危機管理室や校区内各市町村、PTAと連携しながら風水害や南海トラフ地震に備えたBCPを作成し、活動を続ける一因となっています。</p>
②活動の経緯・体制	平成7年4月から、卒業生の保護者有志が南河内地域の卒業生を対象にミニ運動会を学校で始めたのをきっかけに、PTA組織に地域活動委員会を発足させ、在校生も対象に加えて現在に至ります。また、平成20年度からは国の学校支援地域本部事業がスタートし、学校に教育コミュニティづくり推進委員会を発足させました。さらに平成30年度からは教員とPTA会長、校区内市立小学校長、障害者福祉機関、障害者就業・生活支援機関、学識者が連携し、学校運営協議会を中心に組織体制を整備しました。
③活動の効果等	平成20年度より始まった富田林支援学校の図書室開放、ミニ運動会をはじめ、多くの活動を継続させ、障害のある子どもたちやその保護者、学校と地域とのつながりづくりに貢献しています。地域の方々が学校に関わることで児童・生徒の障害理解、子ども理解、さらに学校理解につながり、学校の応援団となっています。人と人のつながりが、障害のある子どもの保護者相互の子育て相談や支援、地域の方々の生きがいに発展しています。児童・生徒は、多様な活動を通して様々な大人と関わることで社会性が育まれ、成長につながっています。

活動の様子



ミニ運動会の「変身リレー」



ヘルマンハーブ演奏会

プロフィール

活動地	兵庫県加古郡播磨町
団体名	特定非営利活動法人 文化・福祉・人権サポート アエソン
活動名称	指定相談支援事業所ライズアップ、地域活動支援センターライズアップ+、播磨町地域自立支援協議会事務局、播磨町住民協働推進事業、NPO 法人アエソンの単独事業
PRポイント	当事者自身の持つ力を引き出せるボトムアップ型の学びの場と地域づくりを目指しています。
連携している団体等	保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、短大、スポーツ団体、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政(教育委員会、保健・福祉部局、危機管理)

功労者表彰

活動分野	学習、スポーツ、文化芸術
主な対象	障害種別を問わず (家族含む)
団体の規模	職員 7名

活動の説明

①活動内容	<p>学校を離れた障害のある当事者が安心できる居場所をつくり、社会の一員として暮らしていくための社会のルールやコミュニケーションの仕方を学び直し、自分の生活を豊かにする余暇の楽しみ方の体験、ストレッチングを引き出せる機会を提供しています。</p> <p>診断された当初から、本人の自尊感情を損なわず、地域の一員として育ていけるために、まず当事者家族が障害特性を理解し、適正なかかわり方ができるように障害について学べる場をつくり、当事者家族がインクルーシブ社会を実現していく発信者、啓発のメンターとして活動できるよう支援しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>2004年 NPO法人設立。障害のある子どものアート展と遠慮せず参加できるコンサートを実施</p> <p>2006年 心理学に基づいた「こころを育てる母と子のかかわり方」全10回講座実施</p> <p>2007年 障害のある子どもを対象としたエイブルアート、中学生以上対象の本人活動（愛会）実施</p> <p>2010年～ 地域活動支援センター「ライズアッププラス」開所</p> <p>2015年～2019年 障害児とその家族を支えるための「家族再生」プロジェクト実施</p> <p>2020年～ 発達障害の理解とかかわり方を当事者家族から発信するペアメンター養成事業実施</p>
③活動の効果等	<p>本人と家族が特性理解やかかわり方、社会のルールなどを学べる場と安心して話せる場をつくることで元気になり、本人も家族も自立した地域住民として成長していくことができています。</p> <p>本人や当事者家族から住民や地域への働きかけを通じて自己を知り、地域の人に具体的な動変容や合理的配慮に気づく機会を提供できています。</p>

活動の様子

	
障害のある方が水引きの梅結びを覚え、地域の方に教えている	浴衣に着替えて、茶道のお作法を学ぶ

プロフィール

活動地	兵庫県赤穂郡上郡町
氏名	西村 正規
活動名称	「スポーツをとおして生きがい仲間づくり・社会参加」
PRポイント	楽しくスポーツ、社会参加へレッツゴー！！
連携している団体等	スポーツ団体、NPO 法人、社会福祉法人、病院・保健所、行政(教育委員会、保健・福祉部局)、その他(上郡町身体障害者福祉協会、上郡町ボランティア協会)

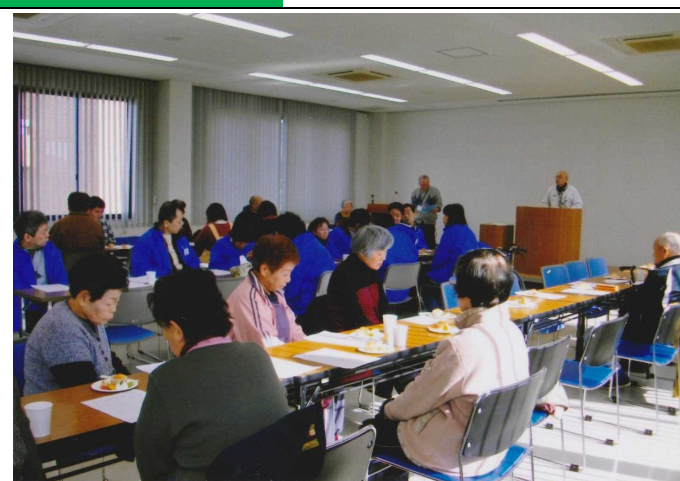
功労者表彰

活動分野
スポーツ
主な対象
障害種問わず

活動の説明

①活動内容	<p>赤穂郡(現上郡町)身体障害者福祉協議会に所属し、自らの身体障害者としての経験を活かし、兵庫県の身体障害者相談員を務める中、障害者スポーツ活動にも興味を持ち、参加するようになりました。</p> <p>同協議会員の障害者を対象に障害者スポーツ講習会を開催したことを機に、障害者スポーツクラブを設立。シニアスポーツや障害者スポーツ指導員の資格を取得するなど、自己研鑽に努める一方、クラブの定期練習や、フライングディスクやポッチャ等競技大会への選手の派遣、地域住民との交流会の開催等、指導者としての活動を通して、障害者の交流・社会参加の場を定着させました。</p> <p>さらに、知的障害者、精神障害者を支援する NPO 法人等の団体とも連携して、障害者スポーツ講習会や交流会等を定期的に開催するなど、知的、精神障害者を含む障害者と地域住民の交流事業を推し進めています。</p> <p>現在は、上郡町身体障害者福祉協議会の理事として、引き続き後進の指導やクラブの諸活動に参加しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>昭和 60 年 2 月より兵庫県身体障害者相談員に就任。同年所属する赤穂郡身体障害者福祉協議会内に障害者スポーツクラブを設立し、指導者として活動を開始しました。</p> <p>平成 18 年には(財)兵庫県高齢者生きがい創造協会シニアスポーツ普及指導員、平成 20 年には(財)日本障害者スポーツ協会公認初級スポーツ指導員の資格を取得。</p> <p>平成 20 年から、知的障害者を支援する「NPO 法人つばき」、精神障害者「NPO 法人ほっと・みのり」と連携し、地域住民との障害者スポーツ講習会・交流会等の活動を開始しました。</p>
③活動の効果等	<p>障害者スポーツを通じ、障害者同士や町民団体等との交流を深めることで、相互の人間関係が醸成され、障害者の社会参加の契機となっています。これらの諸活動が地域に定着することで、障害者と住民の双方に望ましい社会のあり方についての理解が深まり、「ユニバーサル社会」への参画が促されることが期待されます。</p>

活動の様子



障害者・ボランティアとの学習会の様子(演台に西村氏)



障害者スポーツ交流会の様子

プロフィール

活動地	奈良県奈良市ほか
団体名	特定非営利活動法人 ならチャレンジド
活動名称	障害者の文化芸術活動の推進～アート展の開催～
PRポイント	特別支援学校の在校生・卒業生の個性豊かな作品展示および受付・ワークショップ等による来場者との交流事業
連携している団体等	特別支援学校、行政（労働局、奈良県、市町村）、病院、企業・事業所、地域団体等

功労者表彰

活動分野	文化芸術
主な対象	知的障害・肢体不自由 視覚障害・聴覚障害
団体の規模	役員 8名 会員 54名

活動の説明

①活動内容	特別支援学校の児童・生徒、卒業生の個性豊かな芸術作品を発表する「キラリと輝く！特別支援学校アート展」（昨年度8回目、10日間の来場者2400名）、「特別支援学校と病院を結ぶ！奈良県立医科大学附属病院アート展」（昨年度4回目、7日間の来場者1300名）を開催しています。生徒が主役となり司会を担当し、オープニング行事ではダンス、挨拶、テープカットを行っています。展示に加え、生徒・卒業生が受付や作品説明を行い、ワークショップをとおして来場者（患者さん、医療従事者、地域の方々、観光客の方々）との交流を深めています。医大アート展では医大学生も一緒に運営（司会、受付、ワークショップ）に参加しています。これらのアート展は、特別支援学校生徒や卒業生の活躍の場であると同時に、多くの人との交流と相互理解の深化が図られる場となっています。
②活動の経緯・体制	特別支援学校を訪問する中で、生徒たちの純朴でひたむきな姿に心惹かれるとともに、生徒たちが創り出す数多くの作品に感動し、学校内にとどまらず活躍の場を広げたいとの思いから、関係者へ呼びかけ、キラリ！アート展を開催しました。また、職場実習の開拓や職場実習のコーディネートを手がけ、医大病院の職場実習から就労への流れができる中で、県立医大、高等養護学校への呼びかけを経て医大アート展の開催に至りました。13の企業や団体の協賛を得て、財政的支援、チラシ・ポスター配布のご協力をいただきながらアート展を実施しています。
③活動の効果等	児童・生徒は、作品に感動されている来場者の声を会場で直接聞き、それが自信となり新たな制作意欲をもって、卒業後も自主的に出展しています。奈良中央信用金庫からの提案で本店ロビーのアート展も開催しており（本年度8回目）、出展している岸本亜矢子さん（明日香養護学校卒）のデザインが同金庫の通帳、キャッシュカードに採用され、新聞にも取り上げられました。広報誌「チャレンジドニュース」の発行により、障害者の活躍を県内へ広く発信することで、地域の理解も進んでいます。

活動の様子

	
キラリと輝く！特別支援学校アート展	奈良県立医科大学附属病院アート展

プロフィール

活動地	鳥取県米子市
団体名	医療法人養和会メディカルフィットネスセンターCHAX
活動名称	皆生スポーツ広場
PRポイント	スポーツを楽しみ、共生社会の輪を広げよう！
連携している団体等	特別支援学校、専修学校・各種学校、スポーツ団体、社会福祉法人、病院・保健所、行政（教育委員会）、その他（鳥取県障がい者スポーツ指導者協会）

奨励者表彰

活動分野	スポーツ
主な対象	肢体不自由
団体の規模	職員 7名

活動の説明

①活動内容	<p>平成28年度からスタートした「皆生スポーツ広場」は、鳥取県立皆生養護学校（肢体不自由・病弱特別支援学校）の体育館で、毎月1回2時間、土曜日の午前に活動しています。鳥取県立皆生養護学校の在校生や卒業生を主な対象とし、参加費は無料となっています。安心・安全に活動できるよう、施設設備が整い、慣れ親しんだ体育館を使用しています。スポーツ活動の内容は、理学療法士によるストレッチ指導や感覚統合を取り入れたレクリエーションスポーツ、障害者スポーツを中心としたメニューとなっており、例えば、レクリエーションでは「だるまさんが転んだ」「鬼ごっこ」「リレー」「風船バレー大会」など、障害者スポーツでは車いすスラロームやボッチャなどを実施しています。メニューによっては歩行可能な方も車いすで参加していただき、皆が同じ目線でスポーツ活動を楽しめるよう工夫しています。特別行事として、全国障害者スポーツ大会陸上競技の練習会や大会参加、ボッチャを通じた韓国や日本代表選手との交流、特別支援学校の放課後ボッチャ練習等があります。</p>
②活動の経緯・体制	<p>特別支援学校の在校生や卒業生が地域でスポーツ活動に参加する機会は少なく、継続的なスポーツ活動が困難な状況にあること、卒業後は運動の機会が減り、体力の低下による仕事への影響が懸念されることから、障害の有無に関わらずスポーツを楽しみ、体力の向上や共生社会の実現を目指す「皆生スポーツ広場」が始まりました。理学療法士を中心に、医師、健康運動指導士、障害者スポーツ指導員等のスタッフと連携し、活動を進めています。</p>
③活動の効果等	<p>過去4年間の参加者は、延べ750名（障害者244名、一般268名、スタッフ238名）。個々に合った運動プログラムを提供することで、重度の障害のある方も安心してスポーツを楽しんでいます。皆生スポーツ広場をきっかけに鳥取県ボッチャ協会が設立され、県外大会参加のほか、公民館の人権学習に招かれるなど、地域で活躍中です。毎年10名程度が鳥取県障害者スポーツ大会に参加、中には全国障害者スポーツ大会に出場する選手もいます。</p>

活動の様子



レクリエーションスポーツの様子



ボッチャ交流会

プロフィール	
活動地	岡山県津山市
団体名	津山市青年学級
活動名称	津山市青年学級
PRポイント	青年が「笑顔」で「楽しく」活動しています！
連携している団体等	行政(地域振興部)

功労者表彰
活動分野
学習、スポーツ、文化芸術
主な対象
主に知的障害のある障害者 (青年)
団体の規模
代表 1名 会員 76名 事務局員 1名



活動の説明	
①活動内容	<p>津山市青年学級は、主に16歳以上の知的障害者を対象に、体験活動を通じて交流を図ることを目的とした団体で、月に1回程度、第4日曜日に、公民館等を会場に活動しています。活動の内容としては、ダンス・簡単な料理・工作・陶芸などの体験活動を主に行っています。また、集団活動として、年1回、日帰りでバスでの社会見学を実施しています。これらの活動を通じ、地域の障害者とその家族、一般のボランティアの交流を図りながら、障害者の生涯学習活動を推進しています。</p> <p>【令和元年度主な行事】</p> <p>成人と新年を祝う会、バス旅行、クリスマス会、ものづくり(万華鏡)、料理教室(冷やし中華)、ボウリング大会等</p> <p>【令和元年度行事参加者】</p> <p>延べ284人(青年、保護者、ボランティア含む)</p>
②活動の経緯・体制	<p>行事開催前に開催する運営委員会において、事務局に加え、青年、保護者、ボランティアが集まり、行事のプログラム及び進行役を決定して準備を進めます。活動当日の運営については、進行役など中心を担う役割を青年が行い、保護者やボランティアは進行の補助や受付などのサポートに回ります。</p>
③活動の効果等	<p>青年は、県北地域の特別支援学校の卒業生が大半を占めており、特別支援学校卒業後の交流の場として機能しているほか、行事の進行役など中心となる役割を青年が担うことで、達成感や自信を得ることができており、青年やその保護者からの満足度が高い活動となっています。また、ボランティアとの交流によって、障害のある人とない人の相互理解を深める場にもなっています。</p>

活動の様子	
	
青年学級行事 「クリスマス会」様子	青年学級行事 「お花を楽しもう」様子

プロフィール	
活動地	広島県竹原市
団体名	竹原市ふれあい運動会実行委員会
活動名称	竹原市ふれあい運動会
PRポイント	支え合い 励まし合い 力を合わせて 体力アップ！！
連携している 団体等	高等学校、大学、NPO 法人、社会福祉法人、 企業・事業所、行政(保健・福祉部局、広報担当部局)、 その他(地域のボランティア団体)

功労者表彰
活動分野
スポーツ
主な対象
障害種間問わず
団体の規模
委員 10名 事務局 3名

活動の説明	
①活動内容	<p>同運動会は、障害者のスポーツ交流と運動競技を通じて、支えあい、励ましあいながら、体力の維持増進を図ることを目的に実施しています。障害の有無や程度に関わらず、それぞれの体力等に応じて参加できるよう競技種目を工夫し、参加者は、この運動会を励みに、日々の体力増進を図る有効な手立てとなっています。</p> <p>障害の有無に関わらず 10代～80代まで幅広い年齢層が参加し、竹原市障害者自立支援協議会のマスコットキャラクター「かぐやパンダ」と一緒に「かぐやパンダ体操」をするなど、市内の障害者が参加するイベントとしては最大級のイベントとなっています。</p> <p>※かぐやパンダ体操・・・障害のある方もない方も一緒に運動できるように制作した独自の体操 (Youtube に動画あり)</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>昭和 61 年に竹原市身体障害者福祉協会の主催で始まり、平成 11 年度以降は、同協会を含む実行委員会方式に変更となるものの、永年にわたり、竹原市の障害者のスポーツ交流、運動競技を通じた体力の維持促進の場となっています。</p> <p>竹原市社会福祉協議会が事務局を運営し、市内の障害福祉に関するほぼ全ての団体 (8 団体) が実行委員として参加。地元高等学校、近隣大学、企業等との連携も行うなど、参加者数もボランティアスタッフを含めると、例年 200 名以上 (令和元年度実績 225 名) が参加しています。大会運営をスタッフだけが行うのではなく、障害者も自ら動き、可能な限り協力してできることを行い、障害者と健常者が互いに交流しながらも主体的に行動を起こすことができる運営を心掛けています。</p>
③活動の効果等	<p>参加者自身が能動的に自らの体力について考え、維持、向上を確認する貴重な機会となり、これまで 34 年間継続した地域全体の恒例行事として定着しています。</p> <p>参加者は、様々な年代、業種の方が集まっており、障害のあるなしに関わらず、お互いの正しい理解を進めています。スタッフの高齢化が進んでいる現状がありますが、今後の持続可能な運営を目指し、新たなスタッフの連携先の開拓や競技内容の開発等に取り組み、より能動的な活動に発展していきたいと考えています。</p>

活動の様子	
	
競技「玉ころがし」	演技「かぐやパンダ体操」

プロフィール

活動地	山口県全域
団体名	山口県車いすバスケットボール連盟
活動名称	大会の開催、全国大会等への参加及び強化合宿
PRポイント	クルクル回って自由に動ける バスケットボール用車いすを体験しませんか。
連携している 団体等	特別支援学校、スポーツ団体、社会福祉法人、 行政(教育委員会、保健・福祉部局)

功労者表彰

活動分野	スポーツ
主な対象	肢体不自由
団体の規模	役員 35名 加盟団体 5団体

活動の説明

①活動内容	<p>障害者スポーツの競技団体として長年にわたり、車いすバスケットボール大会の主催や小中高校での講習や体験交流会を開催し、生涯学習支援活動へも取り組んでいます。</p> <p>全国に先駆け、県バスケットボール協会に加盟し、ミニバスケットボールチームとの体験交流会や一般バスケットボール大会との合同開催等に取り組んでいます。</p> <p>また、公認審判員及び指導者の育成、若手選手の発掘・育成・強化、障害者スポーツの普及に取り組み、県内の障害者の自立と社会参加の促進に貢献しています。</p>
② 活動の経 緯・体制	<p>役員総会にて活動経過を把握して、次年度の取り組みに活用しており、体験会や交流会の依頼も多く受けています。チーム加盟選手やスタッフの協力の下、多くの講習や交流会へ幅広く対応することで、新人選手の発掘や育成へと活かしています。また、公認審判員育成の研修会も県内で開催するための協力体制も構築しています。</p>
③活動の効果等	<p>昭和56年より、県内試合では障害者と健常者が参加した大会を開催してきました。平成30年に健常者の選手登録が認められ、県内にも健常者のみのチームが結成されました。講習会を通して発掘された選手は、全日本やU-23の代表へ選出されています。</p>

活動の様子



体験交流会



防府ライオンズクラブ杯

プロフィール	
活動地	徳島県徳島市
氏名	江川 禎彦
活動名称	障がい者（児）に対するスポーツ活動支援 及び社会参加の促進
PRポイント	生涯体育
連携している 団体等	特別支援学校、スポーツ団体、社会福祉法人、 行政（保健・福祉部局）



功労者表彰

活動分野
スポーツ
主な対象
障がい種問わず (主に肢体不自由)

活動の説明

①活動内容	<p>昭和39年3月に日本体育大学卒業後、特別支援学校等の教員として勤務する中、自身の専門である陸上競技を通して、障がいのある方々に「スポーツの楽しさ」を伝えたいと考え、昭和62年に、かねてより親交のあった（財）とくしまノーマライゼーション促進協会（現徳島県障がい者スポーツ協会）主催の全国大会県内予選会で陸上競技審判に携わり、県障がい者陸上競技の強化練習コーチに就任、同年全国身体障害者スポーツ大会（沖縄大会）から徳島県選手団陸上コーチとして、選手の指導・育成に携わっています。</p> <p>選手を指導・育成する上で一番大切にしていることは、「障がいを正しく理解するだけでなく、相手の気持ちもしっかり理解する」ということ。選手一人ひとりに声を掛けることで心を通わせ、言葉と態度で「きちんと伝え」そして「伝わった」ことを確認しながら、少しずつ確実に選手を育てていきます。その丁寧で温もりある指導方法は、他の指導者にも大きな影響を与え、徳島県の指導者育成にもつながっています。</p> <p>現在も「生涯体育」を掲げ、障がい者スポーツの振興に尽力するかたわら、2022年の徳島マスターズ陸上競技選手権大会出場（やり投げ）に向け、日々トレーニングに取り組んでいます。</p>
②活動の経緯・体制	<p>特別支援学校等の教員時代から、障がい者のスポーツ活動の重要性を認識していました。特に幼少期からスポーツに親しむことで、運動・スポーツ習慣を定着させることは、学校卒業後のスポーツ活動の継続や健康維持、社会参加の促進につながると考え、県行政や障がい者スポーツの中心的な役割を担う県障がい者スポーツ協会・県障害者スポーツ指導者協議会等と連携し、障がい者のスポーツ活動を支える指導者の育成、地域で障がい者がスポーツに親しむことができる環境づくりに尽力しています。</p>
③活動の効果等	<p>徳島県選手団陸上コーチとして、障がい者（児）の選手育成や競技力向上とともに、指導者の充実や指導スキルの伝授など、多くの選手や指導者を育ててきました。その活動は、障がい者が「いつでも」「どこでも」スポーツに親しむことができる環境づくりへとつながっています。また、行政や障がい者スポーツ協会等と連携することで、特別支援学校生等が卒業後もスポーツ活動を続ける体制が整えられ、「生涯体育」につながるような効果が出ています。</p>

活動の様子

	
全国障害者スポーツ大会強化練習での指導の様子	指導選手のメダル獲得後の様子

プロフィール	
活動地	徳島県徳島市
氏名	生田 誠治
活動名称	「徳島県立障がい者交流プラザ」敷地内花壇及び屋上リハビリ公園のガーデニングボランティア
PRポイント	ガーデニングで、「こころやすらぐ環境づくり」
連携している団体等	特別支援学校、社会教育関係団体、NPO 法人、その他(JA、徳島市植物園、消費者団体)

功労者表彰

活動分野
文化芸術
主な対象
障害種問わず

活動の説明

①活動内容	<p>障がい者が集う交流拠点である「徳島県立障がい者交流プラザ」(以下「プラザ」)において、平成 20 年 5 月から 12 年にわたり、敷地内花壇及び屋上リハビリ公園の植栽・花植え等のボランティアリーダーとして、年間 10 万人を超える「プラザ」の来館者に、「こころやすらぐ環境」を提供しています。</p> <p>また、障がい者等を対象としたガーデニング講座の講師として、園芸の基礎知識や技術について、実践を交えて分かりやすく指導を行い、多くの参加者とのふれあいを大切に、活動を続けています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>園芸家としてグリーンビーンズを主宰する傍ら、「プラザ」開館時(平成 18 年 4 月)から植栽の選定のアドバイスを行い、平成 20 年 5 月より、障がい者等 25 名程度のボランティアとともに敷地内花壇及び屋上リハビリ公園の環境整備に取り組むとともに、ボランティアを対象としたガーデニング講座の講師も務めています。</p> <p>「プラザ」をはじめ、特別支援学校、社会教育関係団体、NPO 法人等のガーデニング講師のほか、環境保全活動等幅広く活動しています。</p>
③活動の効果等	<p>障がい者自らが利用している「プラザ」の植栽の整備やガーデニングを実施することで、障がい者の社会参加の一層の促進が図られました。また、障がいの特性に応じたガーデニング指導により、知識や技術の習得だけでなく、植物を育てることで五感を刺激し、心理的効果・身体的効果・環境的效果をもたらし、障がい者の余暇活動の充実が図られています。</p>

活動の様子

	
屋上リハビリ公園の環境整備	ガーデニング講座

プロフィール	
活動地	愛媛県西予市
氏名	幸田 裕司
活動名称	「障がい児者スポーツの支援・普及」
PRポイント	障がい者スポーツ全般の支援とメンタルケアに関する普及
連携している団体等	保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、専修学校・各種学校、PTA、社会教育関係団体、スポーツ団体、NPO 法人、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政(教育委員会、保健・福祉部局、スポーツ部局)



功労者表彰

活動分野
スポーツ
主な対象
障害種問わず

活動の説明

①活動内容	<p>【障害者スポーツ大会正式種目（精神障害者バレーボール他）】 平成16年より精神障害者バレーボールの普及・発展や選手の育成・指導を目的に毎月1~4回活動しています。愛媛県強化チームの監督として、編成・指導・育成に関わり、2度の全国障害者スポーツ大会（長崎がんばらんば大会、えひめ大会）に出場しました。その後、パラスポーツコーディネーターとして指導助言を行っています。</p> <p>【障がい児者フットサル交流会】 障がいの有る児童生徒に向けた運動療育として、地域や年齢を問わず地域で生活している発達障がいを有する子どもたちを中心に、毎月1回行っています。現在では、発達、知的、精神、身体（肢体）、ダウン症の幼児から青年までの当事者や家族が参加することができる活動になっています。</p> <p>【講演会・研修会】 障がい児者の支援や障がい特性の理解に向けた講演会や研修会での講師依頼を受け、行政職員や医療福祉専門職、障害者家族会、保護者、教員向けに、勉強会や学校保健委員会、人権教育研修会などで講師をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパー養成講座（事業所・施設に所属する介護福祉従事者を対象） ・こころの健康教育（老人クラブ会員、保健推進員、民生児童委員、保健推進員を対象）など
②活動の経緯・体制	<p>【精神障害者バレーボール】 平成16年、当時精神障害者唯一の競技スポーツであるバレーボール競技が、他の障害者スポーツの普及や実践と大きな差が見られたことから、その当時の勤務先である精神障害者関連施設の地域活動として関わり始め、平成26年1月に愛媛県強化チームの監督となりました。</p> <p>【障がい児者フットサル交流会】 平成21年、教育委員会スクールソーシャルワーカーとして学校現場に関わる中で、「障がい児」がスポーツをすることができる環境が少ないと感じていたことから、地域と連携して「フットサル交流会」に取り組んできました。</p>
③活動の効果等	<p>障がい児者がスポーツをすることやスポーツをする場ができたことで、健康維持・体力向上はもちろん、自立心や生活力の向上を促し、重ねて、コミュニケーションのスキルアップをしながら地域生活・学校生活等を送ることに繋がっています。また、保護者や支援者・関係者、地域住民に対して障がい児者スポーツを紹介する機会やボランティアとして関わる機会の提供にも繋がっており、障がいへの理解、障がいのある人への認識を深めて、共生社会の構築を目指しています。</p>



活動の様子

	
精神障害者バレーボール	ゲートキーパー養成講座

プロフィール	
活動地	愛媛県砥部町
団体名	とべ・ひびき会
活動名称	「聴覚障がい者の生きがづくり」
PRポイント	情報交換の場を作り、社会参加促進に努めています。
連携している団体等	大学、スポーツ団体、社会福祉法人、病院・保健所、行政(保健・福祉部局)、その他(愛媛県聴覚障害者協会、愛媛県難聴者協会、砥部町議会)

功労者表彰	
活動分野	学習
主な対象	聴覚障害
団体の規模	会員 42名 役員 6名

活動の説明	
①活動内容	<p>【耳の日の勉強会】 毎年3月にとべ・ひびき会の活動として、耳の日の勉強会を実施し、障がい者や支援者に対し耳の疾病などについて学習する場を提供しています。講師は愛媛大学の医療関係者等と連携の上決定し、医者等の専門家に主に依頼しています。</p> <p>【1日研修会】 11月には小規模な1日研修旅行を実施し、障がい者と健常者の親睦を図るとともに、障がい者の社会参加の機会を提供しています。内容はバスを利用したの県内外施設や歴史文化財の視察研修です。</p> <p>【スポーツ交流事業】 会員同士及び健常者との交流目的でのスポーツ交流(ペタンク等)を行っています。手話通訳者・要約筆記者も交えて親睦を深めています。</p> <p>【議会と町づくりを語る会】 聴覚障がい者にもやさしい町にするために、町議会議員と意見交換を行っています。</p> <p>【手話奉仕員養成講座】 町からの委託を受け、聴覚障がい者に対し、情報提供の役割を担うための手話奉仕員の養成を目的とした講座を開催しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>聴覚障がい者相互の親睦、社会参加及び教養の向上並びに手話奉仕員及び要約筆記者の養成を行うなど、聴覚障がい者の福祉の増進を目的に平成15年10月に協議会を設立しました。設立後は、平成16年度頃から耳の日がある3月に耳の疾病等に関する講演会や視察研修などを行い、聴覚障がいに対する理解と聴覚障がい者や支援者の教養の向上に努めるとともに、参加者の親睦に努めています。手話通訳者なども配置し聴覚障がい者への配慮も行っています。また、砥部町の障がい者福祉を向上させるため、砥部町議会と懇談会を通じて、行政に対し積極的に提言を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>結成当初から砥部町の手話通訳者の増員の必要性を訴え、平成16年度にふれあい手話教室、平成25年度から手話奉仕員養成講座の委託を受ける等、障がい者の生活保障及び健常者の生涯学習として幅広い世代へ積極的に普及拡大を図り、砥部町における聴覚障がい者福祉施策に大きな影響を与えています。</p> <p>地域の聴覚障がい者や支援者が活動に参加しており、健常者の障がい者に対する支援の輪が広がっています。コミュニケーションを図ることが難しく、家庭に閉じこもりがちになる聴覚障がい者に対し、社会参加の促進や生涯学習の場の提供等により、障がい者の生きがづくりに大きく貢献しています。</p>

活動の様子	
	
一日交流研修会	とべ・ひびき会「耳の日」の勉強会

プロフィール	
活動地	高知県
氏名	矢野 泰彦
活動名称	障害者の生涯スポーツの支援・普及
PRポイント	「スポーツを通じて知的障害のある人たちを応援する SON・高知の生みの親」
連携している 団体等	特別支援学校、社会福祉法人、企業・事業所、 病院・保健所、その他(高知ライオンズクラブ)



功労者表彰

活動分野
スポーツ
主な対象
知的障害

活動の説明

① 活動内容	<p>知的障害のある方たちへ、生涯スポーツの提供・普及をするためにボウリングを始め、バスケットボール、競泳、陸上競技の部を立ち上げ、スペシャルオリンピックス日本・高知（SON・高知）の設立・運営に尽力しました。今では年間、約90人が参加しています。また、SONの全国大会には、高知県選手団を組織・引率し、4年に一度の大会に連続して参加するなど、知的障害のある方たちの活躍の場を作り上げています。</p> <p>現在でもボウリング部での指導を続けるとともに、2019年度には、福祉総合フェスタ（7月）や、じんけんふれあいフェスタ（12月）に出展するなど、高知県での障害者の生涯スポーツ普及に欠かせない存在です。</p>
② 活動の経緯・ 体制	<p>被表彰者の矢野泰彦氏は、2002年に徳島での障害者アスリートを描いた映画「エイブル」を鑑賞後、ダウン症協会の仲間と同映画の上映会を企画。高知市において上映会を実施し、700人以上の県民の参加を実現させました。これを機に、スポーツを通じて知的障害のある方たちが社会参加を果たし、生きがいを持てるよう、ボウリング、バスケットボール、競泳、陸上競技の部を立ち上げるとともに、SON・高知立ち上げ準備会を発足させました。</p> <p>2006年にSON本部から承認を受け、正式にSON・高知が設立。2013年には特定非営利活動法人として認証され、同人は事務局長・会長・理事長を歴任しました。一貫して各運動部の運営に関わるとともに、現在でもボウリング部で指導を続けています。</p>
③ 活動の効果等	<p>知的障害のある方たちが、それぞれの希望や能力に応じて、種目を選び、指導を受けることにより、スポーツ技術や体力の向上を目指すとともに、他者との交流の場を通じて、社会性の発達や家族や他のアスリートとの絆が強まり、生涯を通じてスポーツを続けることができる環境が提供されるようになりました。</p> <p>また、地域のボランティアの方々が、一般の施設（体育館、プール、ボウリング場等）でコーチやパートナー（一緒にスポーツを楽しむ人）として支えてくれており、地域社会において、知的障害のある人々を理解し受け入れるという体制が構築されました。</p>

活動の様子

	
指導の様子	ボウリングの仲間たち

プロフィール	
活動地	福岡県朝倉市
団体名	布の絵本「ひまわり会」
活動名称	障がいがある子どもや未就学児の成長と発達支援
PRポイント	安心・安全に触って遊べる布の絵本やおもちゃを通して子ども達の成長や発達に役立つことを目指します！
連携している団体等	図書館、社会福祉法人、行政(保健・福祉部局)

功労者表彰
活動分野
学習
主な対象
知的障がい児 未就学児
団体の規模
会員 7名

活動の説明	
①活動内容	<p>○障がいがある子どもや未就学児を対象に「布の絵本・おもちゃ」制作および補修を定期的に行っています。</p> <p>○制作した作品を市内の障がい者施設、図書館、保育所、子育て支援団体などへ寄贈しています。</p> <p>○社会福祉協議会主催の布の絵本制作講座の講師を務め、布の絵本制作ボランティアの育成を行っています。</p> <p>○障がい者とボランティアとの交流会に参加し、障がいがある子どもと交流しています。</p> <p>○社会福祉協議会主催の住民福祉ボランティアのつどいにて「一針体験コーナー」を担当し、布の絵本やおもちゃの持つ魅力、布の絵本ボランティアの活動を地域住民へ伝えています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>障がいがある子どもや未就学児でも安心安全に触って遊べる布の絵本・おもちゃを作り、子どもたちの成長・発達に役立ちたいと昭和60年にグループを立ち上げました。市内図書館、朝倉市社会福祉協議会、朝倉市ボランティア連絡協議会と連携をとりながら、地域住民が障がいのある人を理解し、誰もが住みやすい街づくりを実現できるように努めています。</p> <p>制作技術向上のため、毎月第1・3・5曜日に勉強会を実施しています。</p>
③活動の効果等	<p>手づくりの持つやさしさとやさしさがある布の絵本・おもちゃは、子どもの自発性・積極性を高めるとともに指を動かす感覚を発達させて喜ばれています。障がいがある子どもばかりでなく、多くの親と子、祖父母と孫とのふれあいにも役立っています。また、制作者にとっても、布の絵本ボランティアとして社会参加し、寄贈先からの喜びの声を聞くことで毎日の生活に充実感を得ることができています。</p>

活動の様子	
	
布の絵本制作講座の様子	一針体験の様子

プロフィール

活動地	熊本県合志市
団体名	合志市音声訳グループこだま
活動名称	音声訳ボランティア活動
PRポイント	20年以上にわたる音声訳活動による 視覚障がい者の方々への 行政情報・福祉情報提供支援、生涯学習支援
連携している 団体等	図書館、社会福祉法人、 行政(教育委員会、保健・福祉部局、広報部局) その他(国立療養所菊池恵楓園)

功労者表彰

活動分野
学習、情報保障
主な対象
視覚障害
団体の規模
会員 16名

活動の説明

①活動内容	<p>【音声訳ボランティア活動】</p> <p>市広報紙「広報こうし」や市社会福祉協議会だより「ほっとライン」、市議会だより「きずな」等を音声訳録音し、音声訳CDを発行。視覚障がいをお持ちの方々及び施設入所者の方々に必要とされる情報を声にして届けるボランティア活動を実施しています。利用者は現在6名で、音声訳CDは、市内図書館・菊池恵楓園盲人会・市社会福祉協議会へも配布しています。</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>平成8年に市社会福祉協議会の音声訳ボランティア養成講座受講者を中心としてグループを結成しました。現在の会員数は16名。3班に分け、毎月録音、吹込み作業を行っています。また、月1回講師を招いての勉強会、視覚障がい者の外出介助、施設での話し相手や読み聞かせ、小学生に音声訳活動を紹介する出前講座なども積極的に行っており、普及啓発活動にも力を入れています。</p>
③活動の効果等	<p>利用者は、行政サービス情報や福祉関係情報等を聴きたい時に音声で聴くことができ、大変喜ばれています。市のホームページでも音声訳を聴くことができるようになっており、視覚障がい者の方だけでなく、市民も音声訳活動を知ることができるようになっていきます。</p> <p>視覚障がい者の方への音声訳活動を、平成8年から20年以上という長い間継続しており、視覚障がいのある方の「目の代わり」となって、情報を声で伝えるという大変重要な役割を担っています。</p>

活動の様子



音声訳活動の様子



活動メンバー（令和2年10月）

プロフィール	
活動地	大分県中津市
団体名	アイメイト中津きさらぎ会
活動名称	視覚障がい者の社会参加に協力
PRポイント	共に歩み、共に生きる社会の実現をめざして！
連携している団体等	行政(福祉部局、広報部局) 社会福祉協議会、その他(視覚障がい者協会)

功労者表彰	
活動分野	学習、スポーツ、情報保障
主な対象	視覚障がい
団体の規模	会員 52名

活動の説明	
①活動内容	<p>障がいの有無にかかわらず共に生きる共生社会の実現をめざし、自主的・組織的・計画的に活動を行い、視覚障がい者の生活を支援しています。具体的な活動内容は以下の通りです。</p> <p>〈 点訳部活動 〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会福祉協議会の広報誌「ペンギン」の点訳 ② 会報の点訳 ③ 会議資料、イベント資料の点訳 ④ 本の点訳 <p>〈 音訳部活動 〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市報、議会だより、税だより等の音訳 ② 社会福祉協議会の広報誌の音訳 ③ 視覚障がい者からの依頼による音訳(行政文書、本) <p>〈 企画部活動 〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ガイドヘルプ研修(日帰りバス旅行を通して視覚障がい者のガイドの仕方を学ぶ) ② サウンドテーブルテニスの補助(年間40回、球拾いの補助) ③ 料理教室の支援(視覚障がい者の調理の支援) ④ 大分県盲人福祉大会への協力(参加する視覚障がい者のガイド) ⑤ ユニバーサルボタリング大会への協力(タンデムサイクリング等で支援) ⑥ だんご汁・ぜんざい会の開催(会員相互の交流会)
②活動の経緯・体制	<p>「きさらぎ会」は1989年点字サークルとして13人で発足しました。初年度は県盲人協会主催の講習会や交流会に参加し、他の市町村との情報交換や連携を行いました。その後、中津市での活動も広がり、県盲人協会と協力して、中津駅へ構内点字ブロックや点字案内板を設置するための活動等に取り組みました。現在は11人の視覚障がい者を含む52人の会員が所属し、点訳部、音訳部、企画部の3部に分かれ、活動は多岐にわたって行っています。</p>
③活動の効果等	<p>会員は、様々な障がい者団体、福祉サークル、市や社会福祉協議会の広報から「きさらぎ会」を知り、活動に参加したことで会員の活動範囲が広がり、様々な機会を通して豊かな生活を送ることができるようになりました。</p>

活動の様子	
「ペダルを踏んで風を切って走りたい！」が叶った日	けなげな盲導犬の姿に感激！(福岡盲導犬訓練センター視察)

プロフィール	
活動地	大分県大分市
団体名	ヨカたの（余暇を楽しく過ごそう）
活動名称	障がい者のスポーツ・文化サークル支援活動
PRポイント	閉じこもりがちで地域社会ともふれ合うチャンスが少ない知的障がい児（者）にその場と機会（余暇【ヨカ】）を提供する団体です。また、ふれあいが長く続けられる活動にするために、コンセプトは（楽しく【たの】）をモットーにしています。
連携している団体等	スポーツ団体

功労者表彰
活動分野
スポーツ、文化芸術、 その他(余暇活動)
主な対象
障害種問わず
団体の規模
登録者 70名 スタッフ 60名

活動の説明	
①活動内容	<p>ヨカたのとは「余暇を楽しく過ごそう」というコンセプトで、障害者の生涯学習の場を提供するために結成したサークルで、サッカー・音楽・美術・登山の4つの活動を行っています。活動内容は以下の通りです。</p> <p>①「サカたの」（サッカーを通して楽しい時間をすごそう） 障害やサッカーの技術の違いに合わせ、スクールコースと普及コースに分け活動を行っています。トップチームは全国障害者スポーツ大会の出場を目指し活動しています。</p> <p>②「オンたの」（音楽を通して楽しい時間をすごそう） 歌う、踊る、からだを動かす、楽器にふれる、ミュージックパネルを見る等の音楽活動を通して、音楽の楽しさを感じ、人（ボランティアや友だち）との交流を楽しむ活動をしています。</p> <p>③「ヤマたの」（山登りを通して楽しい時間を過ごそう） 県内の有名な山に自然に親しみながら歩き、トレッキング及び登山を行っています。</p> <p>④「ビたの」（美術を通して楽しい時間をすごそう） 表現（＝絵画 デザイン 工芸（＝工作）彫塑）と鑑賞を組み合わせた活動をします。</p>
②活動の経緯・体制	<p>スポーツや芸術活動を通して、好きなことに取り組む楽しさや人との交流の楽しさを実感してもらい、生きがいの創出や社会に出るきっかけ作りを目的に活動を始めました。</p> <p>支援スタッフは、教職員や教職員のOBが中心となり、ボランティアで運営を行っています。また、サッカーや山登りには、サポーターとして多くの大学生が協力してくれています。</p>
③活動の効果等	<p>余暇活動を楽しむことが少ない障害者のみなさんに、スポーツや芸術活動を通していろいろな場所で余暇活動する機会を提供しています。また、障害者の社会参加の一助にもなっています。支援には、多くの大学生が参加しているので、障害者理解につながっています。また、スタッフの支援学校教員同士の学びの場にもなっていると考えています。</p>

活動の様子	
	
サカたの（ミニゲーム）	オンたの

プロフィール	
活動地	鹿児島県薩摩川内市
団体名	ひわき YOU 遊スポーツクラブ
活動名称	ひわき YOU 遊スポーツクラブ グラウンド・ゴルフサークル
PRポイント	グラウンド・ゴルフを通した 「共生社会づくり」の実現
連携している 団体等	スポーツ団体、NPO 法人、 行政(商工観光部スポーツ課スポーツ振興グループ)

功労者表彰	
活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害
団体の規模	会員 160 名 事務局員 1 名

活動の説明	
①活動内容	<p>毎月2回、年間を通してグラウンド・ゴルフ教室を実施しています。知的障害者40人と樋脇地域の住民19人が一緒になって明るく、元気に活動を行っています。障害の有無にかかわらず、一緒に活動することで、地域住民の障害者への理解が深まっています。</p> <p>また、地域のグラウンド・ゴルフ大会にも積極的に出場し、日頃の練習の成果を発揮して優秀な成績を収めており、障害者の生きがいづくりにつながっています。</p> <p>会員募集のチラシには障害者の料金設定を掲載し、障害の有無にかかわらずスポーツクラブに入会できることを広く広報しています。</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>平成16年3月のクラブ発足時から現在に至るまで、障害者同士や支援者、一般参加者との交流の場として、「健康づくり・仲間づくり・生きがいづくり」を合い言葉に、障害の有無や年齢、性別にかかわらず、誰もがスポーツを通じて社会参加できる「共生社会づくり」の実現を目指しています。</p>
③活動の効果等	<p>障害者一人一人が、活動を通して運動する喜びや周囲の仲間と関わり合う良さを感じています。また、障害の有無にかかわらずに地域住民と一緒に活動することで障害者への理解が深まっています。</p>

活動の様子	
	
グラウンド・ゴルフ教室の仲間たち	グラウンド・ゴルフ教室の様子

プロフィール	
活動地	鹿児島県霧島市
団体名	特定非営利活動法人 北斗会
活動名称	「手話（しゅわ）わ」 コンサート活動（福祉・医療施設）
PRポイント	手話と音楽でつながるコンサート活動
連携している団体等	高等学校、病院・保健所、行政（保健・福祉部局、市民活動推進課）、その他（手話サークル）

奨励者表彰	
活動分野	学習、文化芸術
主な対象	障害種問わず
団体の規模	通所者 13名 事務局員 10名



活動の説明	
①活動内容	<p>「手話（しゅわ）わ」とは、和やかに人としても丸く、輪になるようにお互い手をつないで活動したいという願いが込められています。手話に興味がある高校生を対象に手話教室を無料で開催しています。また、コンサート活動を行う際に手話通訳を行い、手話を通じた障害者理解に努めています。</p> <p>また、通所者の楽器を学びたいという気持ちに寄り添い、楽器演奏の練習をサポートしています。その成果として、余暇時間等を活用して楽器や歌の練習をしてきた障害者が、霧島市内の病院に入院する患者に演奏を聞かせる活動を年2回程度行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>「手話（しゅわ）わ」の活動は、聴覚障害者が孤立することのない地域を目指して、平成24年9月から活動を行っています。</p> <p>楽器を学びたいという通所者の気持ちから、余暇時間を活用した練習が始まりました。その成果として、平成31年4月から、霧島市市民活動支援事業を活用する形で、コンサート活動を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>手話が高校生等に広がることやコンサートで手話通訳を見ることにより、地域住民の障害者への理解が深まり、障害者にとって暮らしやすい環境ができつつあります。</p> <p>障害者が演奏を発表する機会を得ることにより、自らの学習の成果を認識するとともに、生きがいや居場所を見つけることにつながっています。</p>

活動の様子	
	
「手話（しゅわ）わ」の活動の様子	コンサート活動の様子

プロフィール	
活動地	沖縄県北部地域市町村(通称やんばる)
団体名	社会福祉法人 五和会名護療育医療センター
活動名称	ツール・ド・おきなわ バリアフリーサイクリング活動
PRポイント	熱帯の花となれ風となれ みんなで一緒に DUET/HANDBIKE de やんばる
連携している団体等	特別支援学校、大学、専修学校・各種学校、スポーツ団体、その他(ツール・ド・おきなわ協会)

功労者表彰	
活動分野	スポーツ
主な対象	障害種問わず
団体の規模	約 170 名

活動の説明	
①活動内容	<p>県内の最大の自転車大会「ツール・ド・おきなわ」に2006年より県内北部地域の障害児・者及びそのご家族が約30数組、毎年参加しています。当施設がツール・ド・おきなわ協会より「バリアフリーサイクリングコース」の運営委託を受け、安全に楽しく走れるよう支援を行っています。</p> <p>障害者用の特殊な自転車(DUET車いす付自転車、ハンドバイク等)を用いて参加します。大会3カ月前より主にリハビリテーション課スタッフがコース設定や昼食場所の検討、事前の自転車のポジショニング設定、本人や保護者らと試走練習会を行っています。伴走や応援、コースの立哨などの役割の為、ボランティアで参加される特別支援学校の先生や大学のチア部、地域のボランティア部等の学生や、当施設に関わっている義肢製作所スタッフと事前に練習や打ち合わせを行います。</p> <p>参加している障害児・者にはハンドバイクを自走できる方から医療ケアが必要な重度な方もいて、障害度も幅広い方々が多数参加されています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>2003年からツール・ド・おきなわ協会と当施設にて障害者のスポーツ社会参加を目的にバリアフリーサイクリングコースの設立を準備しました。2006年から2019年まで14年間バリアフリーサイクリングコースを開催しています。大会当日は当施設の医師、看護師、リハスタッフ、療育員及び外部ボランティア等約100名余りでサポートしています。</p>
③活動の効果等	<p>事前準備を入念に行い、その障害児・者が利用し特徴を周知している当施設の大勢のスタッフが関わることで、これまで1度の事故や怪我もなく安全に楽しく障害者のご家族がイベントに参加できています。</p> <p>県内北部の大学や高校、専修学校の学生も毎年ボランティアとして参加して頂いており、障害児・者そのご家族との地域交流になっています。</p>

活動の様子	
	
大会を終えての集合写真	バリアフリーサイクリングコース、スタートの様子

プロフィール	
活動地	沖縄県
氏名	玉城 達男
活動名称	沖縄県立沖縄盲学校三線クラブの指導
PRポイント	琉球古典音楽に親しみ三線演奏
連携している団体等	特別支援学校、社会福祉法人

功労者表彰

活動分野
文化芸術
主な対象
視覚障害 (沖縄盲学校学校生徒等)

活動の説明

①活動内容	<p>視覚障害のある児童生徒が学ぶ盲学校で、20年余りにわたって、中学部、高等部普通科の生徒に加え、中途視覚障害の専攻科の成人を含めて、沖縄の伝統芸能である琉球古典音楽、三線の指導にあたっています。放課後や寄宿舎での余暇活動の時間を中心に稽古を重ねており、活動の一環で学校の文化祭や沖縄県視覚障害者福祉協会の音楽発表会にも出場し、団体賞を受賞するなど活躍の場が広がっています。</p> <p>令和3年の沖縄盲学校創立100周年記念に向け、チャリティーコンサートへの出演や記念式典・祝賀会での演奏も予定しており、稽古にますます熱が入っています。</p> <p>卒業生の中には、指導者となる人もおり、後継者の育成にも力を入れています。また、視覚障害者が三線を弾くために有用であるといわれている、点字の工工四(三線の点字楽譜)の活用・普及にも尽力し、視覚障害者の生涯学習の広がりを支援する活動となっています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>平成12年当時、沖縄盲学校高等部専攻科の教員として定年退職前年に生徒の余暇活動の充実のため三線クラブを立ち上げ、以来、退職後に開業した治療院を営みながら、毎週1回の放課後の活動として学校や寄宿舎での指導を継続しています。</p>
③活動の効果等	<p>視覚障害のある沖縄盲学校の生徒にとって、三線クラブは余暇活動を充実させるとともに、沖縄の伝統芸能に触れる良い機会となっています。また、中途視覚障害者である成人の生徒等にとっても、生活に潤いをもたらすものと、高い評価を得ています。</p>

活動の様子

	
沖縄盲学校文化祭	寄宿舎での稽古

プロフィール	
活動地	宮城県仙台市
氏名	野口 和人
活動名称	知的障害者・自閉スペクトラム症者に対する 様々な生涯学習活動の場の創出と運営
PRポイント	仲間と共に将来にわたって 生活を豊かにしていく居場所づくり
連携している 団体等	特別支援学校、大学

功労者表彰

活動分野
スポーツ、文化芸術
主な対象
知的障害 自閉スペクトラム症者

活動の説明

①活動内容	<p>知的障害者や自閉スペクトラム症者に対する様々な生涯学習活動の場を創出し、その運営を長年に渡り中心的な立場で行っています。主な活動は以下のとおりです。</p> <p>知的障害者を対象としたサッカークラブを創設し、20年近くにわたって運営しています。現在は「仙台 Forza F.C.」の名称で活動しています。様々な競技レベルにある参加者がサッカーを楽しむことのできるチーム作りを目指しています。また、2016年には東北知的障害者サッカー連盟を立ち上げ、その会長として東北各県のサッカーチームの交流活動を担っています。</p> <p>「野口研究室鉄道研究部会」は、自閉スペクトラム症者を対象とした鉄道に関する趣味の場です。週一回のミーティングや鉄道（撮影）旅行などを行っています。自発的にコミュニケーションを行うことが不得手である方々も話しやすい場となっています。</p> <p>「ささけんクラブ」は、知的障害特別支援学校高等部の生徒と卒業生を対象としています。大学の教員等が専門分野とする科学実験や芸術活動などへの参加をサポートします。参加者が友人と一緒に体験・経験することを通じて、将来にわたって継続していく生涯学習機会や友人関係の構築を目指しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>サッカークラブは平成11年に活動を開始し、H22年には「仙台 Forza F.C.」の名称でクラブチームとなりました。創設以来、ボランティアや学生スタッフを中心に運営しています。</p> <p>「野口研究室鉄道研究部会」は平成20年に活動を開始し、大学教員、大学院生、大学生により運営しています。</p> <p>「ささけんクラブ」は平成22年に活動を開始し、大学教員等により運営しています。</p>
②活動の効果等	<p>それぞれの活動の場は、生涯学習を楽しむ場にとどまらず、いつでも安心して立ち寄り、気持ちを落ち着けることのできる、いわば「居場所」の役割も果たしています。また、仲間や支援者との交流を通して参加者の社会性の涵養にもつながっています。</p>

活動の様子

	
仙台 Forza F. C.	鉄道研究部会

プロフィール	
活動地	埼玉県さいたま市
団体名	さいたま市聴覚障害者協会
活動名称	聴覚障害者のための社会教養講座
PRポイント	聴覚障害を持つ人々が暮らしやすい街づくりをしていくための活動です！
連携している団体等	公民館、行政(教育委員会、保健・福祉部局、コミュニティ推進部局)、その他(さいたま市手話通訳問題研究会)

功労者表彰	
活動分野	学習、情報保障
主な対象	聴覚障害 (手話学習者)
団体の規模	会員 134名 職員 2名

活動の説明	
①活動内容	<p>さいたま市教育委員会委託事業として、コミュニケーションの手段に著しい障害を有するため、社会生活上困難な状況に置かれがちな聴覚障害者に対し、社会生活に必要な知識の習得を図り、また、意見及び情報交換をすることを目的として実施している活動です。</p> <p>講座の内容としては、社会生活や職業生活、家庭生活に関することや、法律や経済、文化等一般教養に関すること、コミュニケーションの方法に関することとし、講演や社会見学等を実施しています。</p> <p>また、委託事業以外にも、聴覚障害者の教育・労働・文化・スポーツ等及び生活全般の水準の向上を図り、聴覚障害者をめぐる諸問題の理解を広め、社会参加が可能となる環境を築くために様々な事業を行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>平成13年に旧浦和市、与野市、大宮市の合併により、3つの団体が統合し、その後旧岩槻市の合併により、現在のさいたま市聴覚障害者協会となりました。主に、手話通訳及び要約筆記活動に携わる人々の育成、社会教養講座や聴覚障害者の集いの開催、会報誌の発行などを行っています。また、障害者協会等の他団体と交流を行ったり、さいたま市等の行政機関へ聴覚障害を持つ人々が暮らしやすいまちづくりへの提言を行ったりと、精力的に活動しています。</p>
③活動の効果等	<p>聴覚障害者のための社会教養講座を5月～10月に全6回開催し、延べ617人が参加されました。アンケートの結果、「生活に役立つ知識の習得や情報交換ができましたか」という質問に対し、「よくできた」「まあまあできた」と回答した方が92.2%となり、受講者にとっても大変有意義な講座となっています。</p>

活動の様子	
	
特別講演を受講される皆さんの様子	社会見学での様子

プロフィール	
活動地	神奈川県横浜市都筑区
団体名	w i t hネットワーク
活動名称	バリアフリーWITHコンサート
PRポイント	笑顔・元気・絆をテーマとした ハートフル・ジョイントコンサート！
連携している 団体等	小学校、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、 企業・事業所、行政(保健・福祉部局、区民活動センター)

功労者表彰
活動分野
文化芸術
主な対象
障害種問わず
団体の規模
会員 20名

活動の説明	
①活動内容	<p>バリアフリーWITHコンサートはハンディを持った人達と、地域で活動している音楽グループとのジョイントコンサートです。福祉作業所による販売コーナーと、地元の方のPATCHワーク、絵手紙を展示する作品展の3つで構成されています。</p> <p>1年を通し、出演グループや作業所が他のイベントに出演、出店した時に応援に行くなど、交流の場を拓けています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>1998年に「ハンディがあってもステージで歌いたい！輝きたい！」という熱い想いを受けて音楽の発表の場を提供する為に、w i t hネットワークを立ち上げました。</p> <p>会場は地域とつながりが深い横浜あゆみ荘、都筑地区センターで開催してきました。スタッフの年齢も10代から80代まで幅広く、シニア世代、若者世代が協力し合って継続しています。</p>
③活動の効果等	<p>出演者の年齢が小学生からシニアまでで、音楽のジャンルも様々です。会場で出演者、お客さま、スタッフが一つになり、元気をもらっています。福祉作業所の販売もあり、地域交流の場となっています。</p>

活動の様子	
	
2017年20周年コンサート集合写真	2019年演奏風景

プロフィール	
活動地	静岡県浜松市
団体名	三ヶ日町手話サークル「いちばん星」
活動名称	三ヶ日町手話サークル「いちばん星」
PRポイント	手話で楽しく語ろう！！「いちばん星」
連携している団体等	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、文化芸術活動を行う団体、企業・事業所、行政(三ヶ日協働センター)、その他(社会福祉協議会)

功労者表彰	
活動分野	学習、文化芸術
主な対象	聴覚障害
団体の規模	会員 19名

活動の説明	
①活動内容	<p>毎週木曜日に行っている定例会は、テキスト学習だけでなくニュースや地域の出来事など身近な話題を題材として手話をしたり、聴覚障害者同士の会話の読み取り練習等をして手話を学ぶことで、情報を得ることが難しい聴覚障害者にとって、大切な情報交換の場となっています。</p> <p>また、地域の学校や企業に出向き、手話教室等を通して聴覚障害者への理解や福祉への興味を持ってもらえるような活動を行っています。多くの地域の方々に手話を知っていただきたいとの思いから、地域で開催されている「生涯学習フェスティバル」に平成3年度から毎年参加し、楽しく手話にふれてもらえるように楽しい手話劇や手話歌を考え、練習を重ね、舞台発表しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>昭和62年に聴覚障害者自らが中心となって開催した「手話講習会」をきっかけに、受講者によって昭和63年に設立されたサークルです。現在、聴覚障害者5名・健聴者14名、19名の会員で活動しています。</p> <p>平成20年には浜松市の地域活動団体の認定を受け、三ヶ日協働センターを拠点に活動する団体として行政とも連携を図り、「生涯学習フェスティバル」では実行委員会メンバーとして運営に関わっています。</p>
③活動の効果等	<p>○本会で学んだ会員が、手話通訳者として講演会等へ派遣され、聴覚障害者の社会参加促進に寄与しています。</p> <p>○健聴者との交流により、地域での聴覚障害者への理解が進み、日常生活での交流が生まれたり、福祉に関心を持っていただいたりするきっかけとなっています。特に、子供たちが聴覚障害者と直接ふれ合って聴覚障害について学んだり、聴覚障害者の生活を理解したりすることで、ノーマライゼーション社会の実現に向けて大きな役割を果たしています。</p> <p>○イベント出演は、聴覚障害者への理解が深まるとともに、手話をPRする場として効果的なものとなっています。</p>

活動の様子	
	
定例会	生涯学習フェスティバル

プロフィール	
活動地	岡山県岡山市
団体名	社会福祉法人あいあい 就労継続支援B型事業所青葉作業所
活動名称	障害者（知的・身体・精神）の生涯学習支援
PRポイント	命・はたらく・くらす・生きぬく － 楽しみといきがい 生涯学習 －
連携している団体等	特別支援学校、大学、社会教育関係団体、文化芸術活動を行う団体、企業・事業所、病院・保健所、行政（保健・福祉部局、警察、消防、県生涯学習センター）、その他（各種専門家講師）



功労者表彰

活動分野	学習、文化芸術、その他（生活習慣改善・ボランティア・レクリエーション活動）
主な対象	障害種問わず
団体の規模	障害者 16名 職員 8名

活動の説明

①活動内容	<p>○通所者が楽しみや生きがいを持ち、かつ、地域社会において主体的に生活することができるようになることを目的に、生涯学習に関連した研修を平成16年から毎週土曜日に実施しています。</p> <p>上記研修実績の例としては、「最近の障害福祉」「安全・安心・安定・危機」「災害（火災・地震等）」「地域との合同避難訓練」「交通事故、法律・約束」「きまり・エチケット」「健康管理・生活リズム」「食生活と生活時間とお菓子作り」「働く・余暇・社会参加と美術館見学」「救急法」「音楽」「音読」「体操」等が挙げられます。講義や体験活動など、幅広い分野を対象としています。</p> <p>○美術・造形・日本文化等を楽しむ中で、達成感、満足感、一体感、共感などを味わうことを目的に、平成26年から3年毎に「あいあい青葉作品展」を県生涯学習センターにて開催しています。</p> <p>○平成14年から国指定重要文化財の「岡山城西の丸西手櫓」周辺の草とり、落ち葉集め、たばこの吸殻拾い等を行っており、文化財を守るための環境美化整備活動を実施しています。</p> <p>○平成19年から意欲・体力・気力の向上を図るため、「早寝早起き朝ごはん」運動に参加し、規則正しい生活習慣を整えるよう努めています。（午後9時就寝、午前6起床、よくかんで食べて排便）</p>
②活動の経緯・体制	<p>○研修内容は、作業所の全職員で計画し、各分野から識者、専門家に講師を依頼しています。警察、消防等とも連携し、体験活動を充実させるなど、質・量ともに充実向上を図っています。</p> <p>○研修等は通所者の希望者を対象とし、作業所の職員複数名が常時サポートに当たっています。</p>
③活動の効果等	<p>○通所者同士または職員との交流や、講義・体験の場を通じて、公共のマナーや社会生活上必要な知識を得ることで、一人一人の障害を見据えた、種々の困難に対応する力の向上が見られます。また、余暇の過ごし方を学ぶことで、実際に余暇の充実に活用できている事例が見られます。</p> <p>○岡山城西の丸西手櫓周辺清掃等、長年にわたり、通所者が地域社会の中で知恵と活力を発揮することで、障害のある方への理解促進に寄与しています。平成30年3月には、本市連合婦人会から本作業所に寄付金が贈呈されるなど、地域社会からも高い評価を得ています。</p>



活動の様子

	
あいあい青葉作品展をめざして「描画」の様子	火災・地震時等の学び実践の様子

プロフィール	
活動地	福岡県北九州市
団体名	公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会
活動名称	公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会
PRポイント	障害のある人、ない人が共にボランティア活動を通して障害のある人の社会参加を推進しています
連携している団体等	高等学校、特別支援学校、大学、短大、社会教育関係団体、スポーツ団体、NPO 法人、社会福祉法人、企業・事業所、行政(教育委員会、保健・福祉部局)、その他(障害者団体、ボランティア団体)

功労者表彰	
活動分野	その他(ボランティア活動、余暇活動、IT 活動、スポーツ活動)
主な対象	障害種問わず
団体の規模	正会員 152 名・19 団体 賛助会員 114 名・35 団体 事務局員 6 名

活動の説明	
①活動内容	<p>障害のある人の社会参加支援活動を多岐に亘って実施しており、近年では、障害のある人の IT 支援、ボランティア活動支援や余暇活動支援を積極的に実施しています。</p> <p>特に、IT 支援では、障害のある人がパソコン等の技術を習得するための支援を行っており、障害のある人の在宅での社会参加を推進しています。</p> <p>また、ボランティア活動支援では、知的障害のある当事者がボランティアを受ける側ではなく、他の障害のある人の社会参加を支援する側として活動するための支援をしています。</p> <p>活動においては、会場の段差解消や手話通訳、要約筆記、点字資料の準備など、障害のある人への合理的配慮を行うとともに、障害のないボランティアに対して、障害理解の研修会を実施するなど、障害のある人の参加のための工夫を行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>発足以来 38 年の永きにわたり、団体の活動理念である「共に」の考え方に沿って、障害のある人、ない人が「共に」障害のある人の社会参加支援活動に取り組んでいます。</p> <p>ワープロからパソコンへ転換した時期に、障害のある人の社会参加にとって IT 支援が大変重要となり、パソコン技術を持ったボランティアが IT 支援を開始しています。</p> <p>現在は、関係機関や関係団体等が各種委員会に参画するなど、連携体制をとりながら市の委託事業と併せて団体の独自活動を行っています。</p> <p>また、事業に参加するボランティアの事前研修や、ボランティア講座等の実施により、指導者やコーディネーター、ボランティアの人材育成を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>ALS 患者や盲ろう者など、重度の障害のある人もパソコンを駆使して社会とつながることができるなど、具体的な効果が表れています。また、障害のある人がボランティア活動に参加することによって、社会の一員としての自覚が生まれています。</p> <p>これらの活動は、これまで多くの障害のある人の生涯学習の促進に寄与しています。今後も、専門の人材育成や受け入れ体制の整備を図ることとしており、さらなる効果が期待できます。</p>

活動の様子	
	
パソコンボランティア活動の様子	ボランティア講座実技研修の様子

プロフィール

活動地	熊本県熊本市
団体名	NPO法人オハイエくまもと
活動名称	オハイエくまもと とっておきの音楽祭
PRポイント	「オハイエくまもと とっておきの音楽祭」は、毎年3月に市内8～9ヶ所のストリートを中心に開催、各ステージで障がいのある人もない人も一緒になってふれあいます。
連携している団体等	保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業、病院、行政（教育委員会・保健・福祉・文化部局）

功労者表彰

活動分野	文化芸術
主な対象	知的障害 発達障害
団体の規模	役員：32人 （会員：個人約230人、 企業団体46団体）

活動の説明

① 活動内容	知的・発達障がいのある人たちを中心とした日常的な音楽活動（月二回の練習）を行いながら、その発表の場として、毎年3月に「とっておきの音楽祭」を開催しています。「みんなちがってみんないい」を合言葉に、障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、心のバリアフリーを目指します。多くの方々とのふれあうために、屋外を中心とした市街地の複数の会場で歌やダンス、楽器演奏などを披露し、毎年出演者は約100団体、600人を越えます。ボランティアは音楽家、ダンサー、演出家、医師、看護師、会社員、自営業、公務員、主婦、学生と幅広く、毎年1,000人を超える大規模なイベントとなります。また、東北をはじめとした被災地との交流も行っています。団体設立から今年で11年目を迎え、笑顔溢れる魅力的な音楽祭の更なる充実と、誰もが住みやすい社会の実現を目指して日々活動を続けています。
②活動の経緯・体制	仙台市発祥の「とっておきの音楽祭」のドキュメンタリー映画を見た感動から、2009年に県内の企業や文化関係者に呼び掛けて団体を設立しました。その後も地元企業やボランティア団体等から支援を受け、2010年に西日本で初めて「オハイエくまもと第1回とっておきの音楽祭」を開催しました。（「オハイエ」とは、オハヨウ、イエー！をかけた造語です。）
③活動の効果等	熊本市の中心市街地を舞台に開催される音楽祭は、プロとアマチュアと一緒に演奏し、観客も一体となることで、互いの違いを認め合い、障がいの有無を超えて楽しめるイベントとして地域に親しまれています。誰もが音楽を楽しみ、会場全体が温かな雰囲気にもまれる様子は大きな感動を呼び、県内に限らず日本各地や海外からの参加もあるなど、参加者数は年々増加しています。

活動の様子



とっておきの音楽祭フィナーレは全員でステージ演奏



月二回の練習はみんな楽しそうに参加しています

プロフィール

活動地	石川県金沢市
団体名	社会福祉法人 金沢手をつなぐ親の会（あすなる学級）
活動名称	あすなる学級
PRポイント	あなたの生涯学習の場です
連携している団体等	特別支援学校、行政（金沢市教育委員会・生涯学習課）

功労者表彰

活動分野	学習、スポーツ、文化芸術
主な対象	知的障害
団体の規模	学級生 80名 学級運営者 4名 講師等 25名

活動の説明

①活動内容	<p>月平均3回、日曜日に活動しています（調理、茶道については2班に分けて活動）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一般教養（時事解説、音楽、トレーニング、金沢の歴史、調理等） ○クラブ活動（希望者のみ 茶道、生け花） ○その他（ボウリング大会、温泉宿泊、クリスマス会、新年会、合宿等）（街の清掃ボランティア）（誕生会）（石川県障害者ふれあいフェスティバルで茶の湯コーナーを担当） <p>活動内容は、学級生の希望・意見を基に計画を立てています。</p> <p>近年は、金沢の歴史や文化を学び、現在につながる町並み、建造物、美術工芸品、ふるさとの偉人、名産、方言など幅広く学ぶことに力を入れています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>昭和41年に青年学級振興法に基づき発足。当初は一般青少年との交流も盛んでした。現在は、金沢市の委託事業として実施しています。特別支援学校を退職した元教員4名が学級を運営し、講師には特別支援学校教員や退職者及び生花師範、バレエ教室主宰者など障害者の生涯学習に理解ある方に依頼しています。更に近年は、金沢市の行政担当者（金沢かがやき発信講座）にも依頼をしています。</p>
③活動の効果等	<p>宿泊施設での過ごし方、飲酒、交際のあり方や調理のメニューを家庭にも取り入れるなど、社会生活のマナー、家庭生活に役立つ技能を身に付けてきています。</p> <p>学級生は、大きな年齢幅（18歳～60歳代）がありながら、助け合い、教え合うなど大切な交流と学びの場となっており、参加することが生きがいであり、楽しみとなっています。</p>

活動の様子



調理実習の様子





金沢歴史散歩の様子

プロフィール	
活動地	東京都板橋区
団体名	社会福祉法人 日本肢体不自由児協会
活動名称	「肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展」 「スプリングキャンプ」
PRポイント	社会参加に向けて、家族と社会の間に立つてサポート
連携している団体等	特別支援学校、PTA、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政(教育委員会)

功労者表彰
活動分野
文化芸術
主な対象
肢体不自由
団体の規模
職員数 355名

活動の説明	
①活動内容	<p>「肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展」は、全国から作品を募集し、毎年12月に展示会を開催しています。卒後も創作活動の一助となるよう発表の機会を設け、全国の肢体不自由関係施設等にも働きかけ、応募勧奨しています。開催初日には、特賞受賞者を招いて当協会総裁常陸宮殿下にご臨席を仰ぎ表彰式を執り行っています。</p> <p>「スプリングキャンプ」は、毎年3月に行っています。障害がある青年が抱えている問題を共有し、解決していけたら良いのではないかといいねらいから、キャンプ生活の中で考える機会として、単に外出の機会を増やすということにとどまらず、障害のある本人に、障害の客観的な認識と社会との関わりを再度、確認し自立へのステップとなるような集団生活を行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>「肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展」は、昭和57年に第1回目が開催され、令和元年で38回目となりました。「スプリングキャンプ」は、社会的集団生活の機会を与えようと昭和50年より静岡県の高木記念日本平ロッジにて始まりました。平成6年より、開催場所を山梨県の東京YMCA山中湖センターに変更。現地集合・解散とし、参加者は、どんな交通手段があり、自分にはどのような移動が最適か等の自己決定をする機会ともなっています。</p>
③活動の効果等	<p>「肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展」は、創作活動の発表をする機会として、卒後も創作活動を続けている方からの応募が毎年多数あります。創作活動を指導するコミュニティも増えてきました。近年では、ICTの機能も進み、視線入力で絵を描く方も増えてきました。「スプリングキャンプ」経験者の中で、親元を離れ自立生活を始めた人、地域に小規模の生活施設をつくろうとグループを組織した人、作業所等でリーダーシップを発揮し運営に携わる人等が生まれています。</p>

活動の様子	
	
第38回（令和元年度）特賞受賞作品（視線入力で制作）	自ら企画・運営するクロージングプログラム（平成31年度）

プロフィール	
活動地	東京都港区
団体名	一般社団法人 日本肢体不自由者卓球協会
活動名称	パラリンピック等国際大会での選手の活躍に向けた事業 地域での肢体不自由者卓球の普及活動
PRポイント	生涯を通じた障害のある卓球愛好者の拡大
連携している団体等	特別支援学校、スポーツ団体、 行政(教育委員会、保健・福祉部局)

功労者表彰
活動分野
スポーツ
主な対象
肢体不自由
団体の規模
選手 約 400 名 役員 18 名 事務局員 3 名

活動の説明	
①活動内容	<p>【①パラリンピック等国際大会における選手の活躍に向けた事業】</p> <p>パラリンピックをはじめとする、様々な国際大会で日本の選手が活躍できるよう、選手強化のための強化合宿・練習会等を行い、海外で開催される国際大会への選手、役員の派遣を通じ、国内の肢体不自由者卓球の競技力向上を推進しています。合わせて、コーチ等指導者の資質向上もを行い、選手をはじめ、関係者にとって競技に専念しやすい環境整備を行っています。</p> <p>【②地域での肢体不自由者卓球の普及活動】</p> <p>国内では、全国大会を年間2回主催しています。参加する選手は、国際大会を目指す選手もいますが、生涯スポーツとして卓球を楽しんでいる選手も多くいます。ジャパンオープン・パラ卓球選手権大会は今年で第41回を迎え、長い間多くの選手関係者に親しまれています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>①競技に専念しやすい環境整備のため、スポンサー各社との連携、指導者の増員、練習パートナーの充実により競技力の向上に努めています。</p> <p>②広報担当と広報委託企業と連携し、パラ卓球台プロジェクト・アートプロジェクトにより、普及啓発事業を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>2016年のリオパラリンピックでは入賞を果たし、昨年度の国際大会は18大会に出場しました。中でもアジア選手権大会では、多くのメダルを獲得し、初めて国内で行われたジャパンオープン東京大会では、多くの皆様に試合を観ていただくことができ、多くの選手が結果を残すことができました。</p> <p>コロナ禍により、国際大会開催の見通しがたない状況ですが、パラリンピックへの出場・結果を残すために選手強化、スタッフ・指導者等への更なる資質向上に努めていきます。</p> <p>またジャパンオープン東京大会2019においては、連日1,000名ほどが来場し、パラ卓球への(肢体不自由者卓球および知的卓球)認知・普及の促進がされたとともに、当協会HPで紹介しているパラ卓球台での教育機関への出前授業など、地域での交流事業を多く行いました。卓球を通じて、障害者の生涯学習支援活動を行っています。</p>

活動の様子	
	
ITTFPTT ジャパンオープン 2019 東京大会集合写真	渋谷区小学校での体験会の様子

プロフィール		功労者表彰
活動地	東京都港区	活動分野
団体名	一般社団法人 日本身体障害者アーチェリー連盟	スポーツ
活動名称	パラリンピック等国際大会での選手の活躍に向けた事業 地域での障害者アーチェリーの普及活動	主な対象
PRポイント	体力・年齢に関わらず、長く続けられる生涯スポーツ	肢体不自由
連携している 団体等	特別支援学校、スポーツ団体、 行政(教育委員会、保健・福祉部局)	団体の規模
		会員数 約 240 名 役員 7 名 事務局員 3 名

活動の説明	
①活動内容	<p>【①パラリンピック等国際大会での選手の活躍に向けた事業】</p> <p>パラリンピックをはじめとする様々な国際大会において、恒常的なメダル獲得を目指し、選手強化のための合宿・国際大会への選手・役員の派遣を行っています。同時に、国内の障がい者アーチェリーの競技力向上を推進しています。また、コーチ等指導者の資質向上・スタッフの増員を行い、選手のパフォーマンス向上・スキルアップに繋がる環境整備を行っています。</p> <p>【②地域での障がい者アーチェリーの普及活動】</p> <p>国内での全国大会を年間 2 回主催し、地域の 6 大会を後援しています。参加する選手は国際大会を目指す選手もいますが、国内の一般大会（健常者と一緒）も含め、生涯スポーツとしてアーチェリーを楽しんでいる選手が多いです。日本選手権（フェニックス大会）は今年で 49 回を迎え、長い間多くの選手・関係者に親しまれています。</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>①競技関連企業との契約により、パフォーマンス向上に繋がる環境整備が可能となりました。指導者は国際経験を有した若いコーチ陣が東京大会に向けて指導を行っています。</p> <p>②普及活動では、ホームページ・SNS を重視した広報活動により、強化選手の活躍を中心にリリースしています。まずは、興味を持っていただくことを優先し、関係団体との体験会に積極的に参加しています。</p>
③活動の効果等	<p>①パラリンピックでは 1964 年東京大会から金 5 個・銀 12 個・銅 9 個、合計 26 個のメダルを獲得していますが、直近 2 大会でメダル獲得ができませんでした。昨年（2019 年）の国際大会（4 回）ではメダル獲得者を多く輩出し、現在の世界ランキング個人男子 2 位・女子 5 位と確実に選手強化が進んでいます。</p> <p>②障がい者スポーツの中では歴史が古く、多くの人に親しまれている競技で、総合体験会では常に人気があります。体力、年齢に関わらず、長く続けられるスポーツのため、生涯現役の選手も多いこともアーチェリーの魅力となっています。</p>

活動の様子	
	
ドバイで集合写真	国内大会の様子

プロフィール	
活動地	東京都八王子市
氏名	海老塚 耕一
活動名称	芸術鑑賞
PRポイント	触れてみる展覧会、 あそびじゅつ（ワークショップ）を通じた 誰もが楽しめる美術、芸術鑑賞
連携している 団体等	特別支援学校、大学、社会教育関係団体、 その他（美術館、ギャラリー）


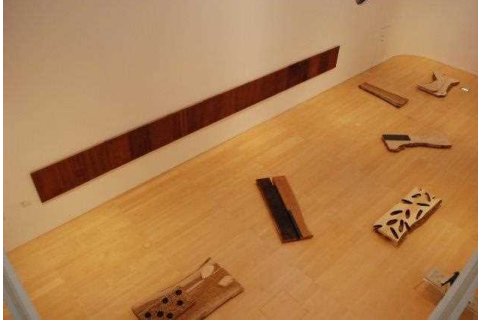
功労者表彰

活動分野
文化芸術
主な対象
障害種問わず(主に視覚障害)

活動の説明

①活動内容	<p>【活動の内容】</p> <p>1986年「視覚障害者のための手で見る彫刻展」より30年以上にわたり、美術館、ギャラリー、一般社団法人、特別支援学校等と連携し、「触れる」ことで美術作品を感じるための展覧会、ワークショップを随時行っており、健常者との隔てなく、障害を持つ方々へも「鑑賞」することの楽しさや大切さを伝え続けています。</p> <p>【実施の工夫】</p> <p>障害を持つ方にはそれぞれ常識的な美術観では捉えることのできないあり方があり、健常者の考えや、理解している美術を押しつけるのではない方法を模索しながら、お互いの違いを確認しつつ、講座・あそびじゅつ（ワークショップ）等を行っています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>様々な障害を持った人々が、健常者との差異により芸術作品を楽しむ機会を多くもてない状況に対し、「すべての人に開かれた美術・芸術」のあり方を探って明らかにし、その上で健常者も含めたすべての人に向かって開かれた作品や展覧会、ワークショップを制作し、提供しています。</p>
③活動の効果等	<p>「すべての人に開かれた美術・芸術作品」を制作、展示、提案したいという考えのもと、障害を特別なものとせず、すべての人が美術に親しみ、楽しむ機会を提供することで、障害を持つ人々の自己表現や学びの意欲につなげています。今後も展覧会やワークショップ等の活動を通じた障害者への文化活動の参加を支援していきます。</p>

活動の様子

	
横須賀美術館でのワークショップの様子	横須賀美術館での展示の様子

プロフィール	
活動地	岡山県岡山市
団体名	岡山もものを会を支援する会
活動名称	岡山もものの会の活動支援・啓発活動
PRポイント	23年間の当事者の会支援～豊かな生活を！！
連携している団体等	社会福祉法人、その他(岡山県・岡山市手をつなぐ育成会)

功労者表彰	
活動分野	学習、スポーツ、文化芸術、その他 (旅行・清掃ボランティア活動)
主な対象	知的障害
団体の規模	支援者 47名

活動の説明	
①活動内容	<p>ノーマライゼーションの理念のもと、知的障害児・者の自己決定や社会参加による豊かな生活が取り上げられだした時期に、当事者の会である「岡山もものの会」が発足しました。支援する会は、発足時より活動支援を行ってきています。</p> <p>内容としては、岡山もものの会が行っている毎月の行事と、毎月第4土曜日に行っている岡山駅前の清掃活動の支援を行っています。令和元年度には、「テーブルマナー、音楽を聴きに行こう(総社吹奏楽団)、映画鑑賞(イオンシネマ岡山)、勉強会(健康について・友達について)、クッキング、手をつなぐ育成会中国・四国大会すまいる大会への参加と運営、新年会、ふれあいウォーク in ツーデーマーチ(コロナのため中止)」などの月行事とボランティア活動(清掃活動)の支援を行いました。</p> <p>活動の計画・実施には、岡山もものの会の役員と支援する会の2名が中心になってあたっています。支援の会は行事ごとに担当支援者を決めて支援を行っていますが、本人たちの考えを尊重し主体的な活動になるように支援を進めています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>平成9年11月に岡山市で開催された育成会の全国大会「本人大会」の運営に参画するため、「岡山ももの会」が結成されました。このときボランティアとして支援した団体が「仲よし作業所」(平成12年 社会福祉法人岡山市手をつなぐ育成会に法人化)の職員を核にしたボランティア団体で、現在まで23年間にわたり活動支援を行ってきています。活動内容によっては、岡山県手をつなぐ育成会や岡山市手をつなぐ育成会(親の会)と連携して支援を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>支援により活動範囲の拡大・活動回数の確保や社会生活に関する研修など、内容の充実した本人の会の活動が継続できています。会議・研修会・育成会の大会などでも、本人たちの意見発表や協力しながら自分たちの力で活動を進める意欲・能力が培われてきています。また、地域に出かける活動も多く、知的障害のある人の理解・啓発活動にもなっています。</p>

活動の様子	
	
岡山駅前の清掃活動	「健康について」の勉強会

プロフィール	
活動地	千葉県千葉市
団体名	淑徳大学 手話サークル「たんぽぽ」
活動名称	手話を通じた障害者の生涯学習支援 および地域活性化のための活動の普及と発展
PRポイント	たんぽぽは障害者の生涯支援活動を行いつつも、支援をする側・される側に分かれることなく、障害者と健常者が対等に交流をする中で、お互いに壁を感じずに過ごせるよう、理解を深めています！
連携している団体等	大学、スポーツ団体、NPO 法人、行政（総合政策局、市民局等）、その他（動物園、千葉市動物公園）

功労者表彰
活動分野
学習、文化芸術、情報保障
主な対象
障害種問わず(主に聴覚障害)
団体の規模
スタッフ 97名

活動の説明	
①活動内容	<p>聴覚障害者を含むサークルで、聴覚障害者である手話パフォーマーの指導のもと、障害者と健常者が共に手話パフォーマンスを学び、手話ソングや手話劇を発表したり、手話レクリエーション、例会（手話の勉強会）を実施しています。</p> <p>○平成 21 年より毎年 8 月に、淑徳大学と千葉市動物公園の共催で「ドリーナイトアットザズー」と題し、6 歳から 18 歳の障害者とその家族だけを動物園に招いて楽しく過ごすイベントで、手話ソングのライブを開催しています。</p> <p>○平成 22 年より淑徳大学と千葉市が共催する車いすバスケットボール全国選抜大会やオープンキャンパスでは、聴覚障害者に手話通訳で情報保障を実施しています。</p> <p>○平成 24 年より長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車いすバスケットボール全国選抜大会における手話通訳ボランティア活動をしています。</p> <p>○平成 28 年秋より淑徳大学がオフィシャルパートナー契約を結ぶバスケットボールチーム「千葉ジェッツふなばし」の冠試合にて、手話ソングを披露しています。</p> <p>○平成 30 年より毎年 1～2 月にイオンモール幕張新都心店のグランドコートで、車椅子アートプロジェクト「チバフリ」にて、手話パフォーマンスを披露しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>○大学の手話サークル「たんぽぽ」として発足しました。週三回の活動をベースに学内外の機関や団体と連携して、その活動の範囲を広げています。障害の有・無や聞こえる・聞こえないに関係なく活動を楽しみながら、障害者が生涯学習に参加できるよう支援しています。</p> <p>【関係機関との連携体制】 千葉市動物公園、車いすバスケットボール実行委員会等</p>
③活動の効果等	<p>○活動内容を通して、障害者の生涯学習活動の普及と発展に資するだけでなく、障害を持たない方にも手話の楽しさを普及することにより、障害理解や啓蒙活動のために寄与しています。</p> <p>○活動歴が長期にわたるため、様々な人脈やネットワークを通して、官民を問わず複数の地域の手話団体や他大学とつながり、協働で手話体験を通じた企画を立て、活動の範囲を広げています。</p>

活動の様子	
	
手話パフォーマンスの様子	サークル活動の様子

プロフィール

活動地	東京都小金井市・小平市
団体名	東京学芸大学「ふれる・もつ・かんじる」展 実行委員会
活動名称	「ふれる・もつ・かんじる」展
PRポイント	触れる・持つ・感じる 感覚から生まれる感動！造形活動の可能性！
連携している 団体等	特別支援学校、大学、病院・保健所、行政(教育委員会)

功労者表彰

活動分野	文化芸術
主な対象	院内学級の児童・生徒及び卒業生、 特別支援学校の児童・生徒
団体の規模	学生 60名 教員 4名 参加機関教員 18名

活動の説明

①活動内容	「ふれる・もつ・かんじる」展は、重度重複障害児を対象とした特別支援教育及びインクルーシブ教育のモデルを探るとともに、小金井及び小平を中心とした地域にそれらのモデルを提唱していただくことをねらいとして計画されました。毎年テーマを決め、特別支援学校の児童・生徒と東京学芸大学美術科の学生の作品の展示及び交流活動の環境づくりを行う事業です。東京学芸大学芸術館における12月の展覧会は、国立精神・神経医療研究センター病院療育指導室、東京都立小平特別支援学校、小平特別支援学校武蔵分教室、東京都立清瀬特別支援学校、東京都立小金井特別支援学校、東京都立田無特別支援学校の6機関の児童・生徒の作品及び出張授業で制作した作品の展示構成となっています。「出張授業」は、例年8月に国立精神・神経医療研究センター病院療育指導室及び小平特別支援学校武蔵分教室において、東京学芸大学花澤研究室及び村山研究室の学部生・大学院生が実際に造形活動等の指導を行うものです。
②活動の経緯・ 体制	本事業は、東京学芸大学洋画研究室の学生を中心に、東京都立小平特別支援学校武蔵分教室及び国立精神・神経医療研究センター病院療育指導室との連携により、平成22年度から開始し、その後都立特別支援学校4校が参加して、現在の6機関となりました。会長を東京学芸大学・花澤洋太、副会長を参加機関管理職及び東京学芸大学・村山拓、実行委員を東京学芸大学参加教員及び学生とした組織体制をとっています。
③活動の効果等	本事業では、ワークショップのなかで様々な障害種の子どもと障害をもたない多様な年齢の子どもが、同じ場で協力して作品を作り、展示を行います。この活動は、地域の障害をもつ子どもとたない子どもとの交流の場となり、インクルーシブ教育を通じた共生社会の足がかりとしての貴重なモデルとなります。また、東京学芸大学の教員及び学生と参加機関教員との交流は、各専門・教科を横断した学びの場となり、多様な視点を獲得する効果があるものと考えます。

活動の様子



国立精神・神経医療研究センター病院 ワークショップ 交流 2019



東京学芸大学 芸術館 展示及びワークショップ 2018

プロフィール

活動地	新潟県長岡市
団体名	長岡技術科学大学 地域児童生徒・障害支援のためのパソコン教室「みんなのパソコン教室」
活動名称	総合支援学校卒業生を含む地域児童生徒・障害者への支援のためのパソコン教室
PRポイント	パソコン教室における協働的行為の継続によってピア・サポートの輪を広げる
連携している団体等	その他(障害児童生徒の就労体験の市民活動「ぷれジョブながおか」、親子体験農園の市民活動「みんなの体験農園」、独立行政法人国立病院機構新潟病院「佐藤伸夫美術館」画家 佐藤伸夫)



奨励者表彰

活動分野	学習、文化芸術、情報保障
主な対象	発達障害
団体の規模	学生 8名 教員 1名

活動の説明

①活動内容	<p>地域の市民活動や工学部大学生のボランティア、そして、保護者と協働し、軽度な知的障害の重複を含む発達障害のある児童生徒や、就労移行支援事業所に所属する総合支援学校卒業生を対象に、年間を通したパソコン教室を開催しています(夏季冬季休みを含まず隔週を目標に開催)。また、2020年度からは、新型コロナウイルスの感染症拡大防止を考慮し、各家庭とTV会議システム等を用いて接続し、教室を開催しています。</p> <p>パソコン教室では、障害および年齢の異なる対象者が自らの発達にあわせた情報活用能力の獲得に関する課題、そして、得意な領域や余暇を含む生活に則った個別のテーマについて学習を継続しています。</p> <p>この継続した学習の中で、サポーターとの協働により制作した作品は、地域のコミュニティにおいて公開の機会を頂いています。そして、この作品自体を次の学習の材料とし、また、他者への情報伝達や教え合い、コミュニケーションのツールとして用いています。</p> <p>このような取り組みにより、地域の方々や大学生も含む「みんなの取り組み」をパソコン教室の形で継続することで、「ピア・サポートの輪」を広げることを活動内容としています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>土曜日に、大学の学生自習用パソコン室の端末の一部を大学生の利用と平行して使用すること、そして大学生サポーターらの協力により、パソコン教室の無料化を実現しています。</p> <p>また、2019年度には、学長裁量経費「地域障害生徒のパソコン教室における工学的知見を用いたボランティア支援」により、教室で使用する機器を確保できました。そして、2020年度、新型コロナウイルスの感染症拡大防止のための遠隔体制においても、大学契約のTV会議システムを地域貢献の一環として活用することで、参加無料の教室を継続しています。</p>
③活動の効果等	<p>総合支援学校を卒業後、現在就労移行支援事業所に通う方々も、継続して参加して頂き、参加者は年々増えています。さらに、今年度の、感染症拡大防止を目的とした遠隔体制での教室は、そのICTを用いた教室自体が子どもたちにとって大きな学びとなっています。</p> <p>そして、取り組みも通じて、本学学生らにも広がりつつあるピア・サポートの輪は、本学のVOS(活力・独創力・世のための奉仕)や工学の精神に則った福祉的マインドを有する、社会への相互的なサポーターの育成に繋がるものであると期待しています。</p>

活動の様子

	
土曜日の大学パソコン室、子どもたちと大学生の協働	国や県の文化祭における、地域と連携した、教室作品の発表

プロフィール

活動地	愛知県名古屋市
団体名	名古屋市立大学 障害者問題研究会
活動名称	日曜つゆはし学校（通称：日学）
PRポイント	交流を通して理解を深める
連携している団体等	大学、企業・事業所

功労者表彰

活動分野	学習
主な対象	知的障害
団体の規模	学生 67名 教員 1名

活動の説明

①活動内容	<p>作業所やホームで生活している知的障害のある方々（「仲間」と呼んでいます）は、同じく障害を持つ人やヘルパー・職員など、限られた方々とししか交流がないため、退屈してしまうことがあるそうです。また、サポートする人も限られているため、休日も障害のため、出歩ける範囲が限られてしまっています。そこで障害者問題研究会（障問研）では、日学と呼ばれる月に1度の交流活動と年に数回のお出かけや夏旅行など、参加費数百円の仲間の負担にならない予算で仲間が色々な人と交流できる機会を作ったり、仲間の家族が自分の時間を持てるようにしたり、私たちが活動を通じて様々なことを学ばせてもらったりしています。</p> <p>月に1度の交流活動では、日曜日に仲間とお出かけや料理、レクリエーション、工作などを通して交流を行っています。年に数回行っているお出かけや夏旅行では、仲間が障問研のメンバーと密接に関わるなど、より密度の大きい活動を行っています。</p> <p>親御さんや職員の方々から仲間を預らせていただいているという意識の下、決まりを守り、責任をもって活動しています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>顧問の先生のアドバイスを受けながら、仲間を楽しんでもらうための活動案を2年生の部員が中心に企画し、活動の後、仲間の行動・様子をメモして、親御さんに具体的にお伝えします。活動後仲間にとってどこが良かったのか、どこが悪かったのかを活動に参加した部員で話し合い、課題を解決するための反省会を行います。また、活動日の前週の水曜日に、部員が参加する障害者の理解を深める勉強会を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>仲間の要望や意見を聞きながら、主体性を尊重して交流することで仲間の精神面の自立支援に繋がっていると思います。現在、障問研の活動に多くの仲間に参加してもらっていますが、その中には、昔から活動に参加している仲間や仲間の親御さんの紹介で来ている人が多くいます。この事は障問研がこれまでの長い間、仲間と親御さんとの信頼を築きながら、それに支えられて継続してきた証だと感じています。</p>

活動の様子

	
日学の活動の様子	夏旅行の活動の様子

プロフィール

活動地	滋賀県彦根市・東近江市
団体名	滋賀県立大学ボランティアサークル Harmony
活動名称	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト
PRポイント	モットーは「無理なく、楽しく！」
連携している団体等	特別支援学校、大学、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、行政(教育委員会)、その他(学内外の文化活動団体や福祉団体、新聞社)

功労者表彰

活動分野	学習、スポーツ、文化芸術、その他(余暇活動)
主な対象	障害児とその保護者
団体の規模	学生 15 名 教員 2 名

活動の説明

①活動内容	NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディーの専属ボランティアとして、特別支援学校・学級、作業所などに通う自閉症やダウン症など他人とのコミュニケーションに困難が生じる障害児・者を支援する活動を継続して行っています。活動は、茶道や油絵など<月1回の定例活動>とみんなが楽しめるイベントとしてコンサート・お泊り会など<毎年の恒例活動>を行っています。定例活動では信頼関係を築きながら、子どもたちの社会性や手先の器用さを身につけることを支援しています。(参加学生約10名、子どもたちの参加約10名)。恒例活動については、カヌー体験やバス旅行(子どもたちと家族20~30名、学生約10名)、学習会を兼ねた宿泊体験(約50名)、クリスマスコンサート(参加者約200名・主催者や関係者約100名)などを、学生が主体となって企画・実施し、障害を持っているために制限されてしまいがちな障害児・者とその家族の充実した余暇活動を支援しています。子どもたちが活動を楽しみ、他者と関わる力を発達させていく姿を見守りながら、学生も共に成長することをめざしています。
②活動の経緯・体制	メロディーのメンバーから本学教員に「自分からは、楽しいこと、おもしろいことを見つけるのが苦手な子どもたちに、こんな楽しいことがあるんだなって感じてもらうお手伝いをしていただけませんか」という依頼があり活動が始まりました。メロディーとはもちろんのこと、学内外の文化団体や福祉団体、養護学校教員、地域在住の芸術家、他大学の教職員など、様々な人と連携し活動しています。また、メンバー同士が積極的に連絡をとりあったり、マニュアルをつくったりしながら、継続して活動が行えるよう工夫しています。
③活動の効果等	子どもたちはもちろん、学生やNPOの方々など、参加者全てが共に楽しむことができるような企画を学生が提案し、実施・実現しています。家族だけでは難しいことを、子どもたちと年齢が近い学生が、寄り添い、共に活動することで、子どもたちの成長と家族の力になっています。障害児・者やその家族が社会の中で当たり前に住みたいという願いを実現してきているという、大きな成果を上げています。また、様々な人々との連携をつくりだしており、エンパワメントという観点から地域の活性化に貢献しています。

活動の様子

	
定例活動の油絵制作 学生とペアで	毎年恒例のクリスマスコンサートでのダンスショー

プロフィール

活動地	兵庫県神戸市
団体名	神戸市外国語大学ボランティアコーナー学生スタッフ
活動名称	学園東町なかよしのお楽しみ会
PRポイント	協力、継続、工夫で育む子どもたちの成長
連携している団体等	その他(学園東町ふれあいのまちづくり協議会)

功労者表彰

活動分野	その他(子どもの遊びの機会保障)
主な対象	障害種問わず(主に発達障害)
団体の規模	学生 38名 職員 1名

活動の説明

①活動内容	<p>大学近隣の地域福祉センターに障害のある子どもとその兄弟を招き、遊びの会を実施しています。参加者は幼児、小学生を中心に毎回平均30名程度です。子どもたちが他者との関りや遊びを通じて、コミュニケーションを取れるようになり、ルールを守って楽しく遊べる社会性が身につくことを目指しています。保護者にとっては、子どもたちの育ちの悩みを共有するなど、進路を考えるうえでもお互いの貴重な情報交換の場となっています。</p> <p>具体的には、「縁日」「運動会」等、季節にちなんだ遊びや、「カレー作り」「パンケーキのデコレーション」といった料理、近隣の公園での外遊びを行っています。遊びの後はお茶の時間を設け、地域ボランティアと保護者も含めた参加者全員が交流を図れるようにしています。</p> <p>遊びを企画する学生スタッフは子どもたちの障害についての勉強会や保護者との連絡会を毎年実施しており、ここで学んだことをふまえて、参加する子どもたちの特性を考慮し、遊びへの参加のしやすさ、指示のわかりやすさ、安全の確保などに工夫を重ねています。例えば、子どもたちに伝えたいことは口頭だけの説明ではなく絵を使って示し、スムーズな進行のためにきめ細かく当日のスケジュールを示すなどしています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>本学の学生が、子どもに障害があることを理由に地域に溶け込めず孤立している保護者がいる問題点に気づき、ボランティアコーナー職員にこれを相談したことがきっかけです。そこで、本学ボランティアコーナーが学園東町ふれあいのまちづくり協議会と協力して、障害のある子どもたちへの安全な遊びの機会の提供と、同じ境遇の保護者同士が交流し、情報共有できる場の提供を目的に、この活動を立ち上げました。今年で13年目を迎えた息の長い活動です。</p> <p>活動は毎月1回、地域福祉センターで開催しています。当日の遊びについての企画、準備、運営は神戸市外国語大学ボランティアコーナー学生スタッフが、活動場所の予約、活動予算、参加家庭への連絡は学園東町ふれあいのまちづくり協議会が担当しています。</p>
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ○障害のある子どもたちに、土曜日に安心して遊べる機会を提供できるようになりました。 ○他者との意思疎通が難しかった子どもが学生スタッフや地域ボランティアとの関りを通じてあいさつや意思表示が言葉で行えるようになり、会話を楽しめるようになりました。 ○子どもたちは時間を守る、遊びのルールを守るといったことを会得し他の子どもたちと遊びを楽しめるまでに成長するなど、子どもたちの成長の手助けとなっています。 ○同じ障害のある子を持つ保護者同士が交流でき、子どもの教育についての情報交換や小さい子を持つ保護者へのアドバイスを行うなど相互支援の場へと発展しています。

活動の様子



学生スタッフとキャラクター福笑いを楽しむ子どもたち



公園での外遊び 子どもたちと学生スタッフ

プロフィール

所在地	広島県東広島市
団体名	広島大学大学院人間社会科学研究科附属 特別支援教育実践センター
活動名称	障害のある人の学び・暮らしの力を支える実践的活動
PRポイント	障害のある人もない人も、 共にグローバルな活躍をめざそう！
連携している 団体等	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、 大学、行政(教育委員会他)

功労者表彰

活動分野	学習
主な対象	知的障害、視覚障害、 聴覚障害、肢体不自由、 発達障害等
団体の規模	学生 45名 教員 12名

活動の説明

①活動内容	教職員と学生がチームを組み、地域と連携を図りながら、①「アートは生活と社会を変える」、②「視覚障害者のための iPhone 活用研修会」、③「吃音のある学生のための就活講座」、④「特別支援教育サポーター活動」等の活動を実施してきました。①では、教育委員会や認定 NPO 法人、障害当事者、教職員、学生が連携し、障害者アートによる街づくりや商品開発を、②では、市販や自作アプリを弱視児者に紹介し、活用する機会を設けることで見えにくさを改善し、生活や学びの向上につなげる活動を、③では、吃音のある求職者に対し、流暢性を促す発話練習、面接の心構え、効果的プレゼンテーション方法等を指導する活動を、④では、教育委員会と連携して実施している活動で、学生が課外活動の一環として、公立小中学校を訪問し、教員の補助として、多様なニーズのある児童生徒を指導する活動を実施してきました。
②活動の経緯・ 体制	特別支援教育の開始を契機に、地域や学校、医療機関、保護者からの相談が増えたことから、従来は教員が個人的に実施していた教育相談・臨床活動を、本学内外における強固な連携を図り、組織的な実施体制を整え、地域貢献の一環として本活動を実施することとなりました。活動に参加した先輩から後輩への指導、障害当事者同士で交流を持てる機会を設けるなど、活動を広げ、深めるための工夫をしています。
③活動の効果等	昨年実施した教育相談・臨床件数は 729 件であり、国内外からの利用実績があります。また、学校や医療・療育機関からの紹介による事例も増加しています。当センターでは、本学内外と連携を図りながらこうした活動を組織的に展開することによって、地域の特別支援教育の推進や、障害当事者の生活の質の向上といった効果が見られるようになりました。

活動の様子

	
「アートは生活と社会を変える」展示会の様子	「視覚障害者のための iPhone 活用研修会」の様子

プロフィール

活動地	愛媛県松山市
団体名	愛媛大学教育学部 特別支援教育講座 TREASuRE プロジェクト
活動名称	TREASuRE (トレジャー) プロジェクト
PRポイント	生涯学習が障害のある人を地域の宝に変える！
連携している団体等	保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、高等専門学校、図書館、社会教育関係団体、NPO法人、企業・事業所、病院・保健所、行政(教育委員会、保健・福祉部局)、その他(障害当事者の会)


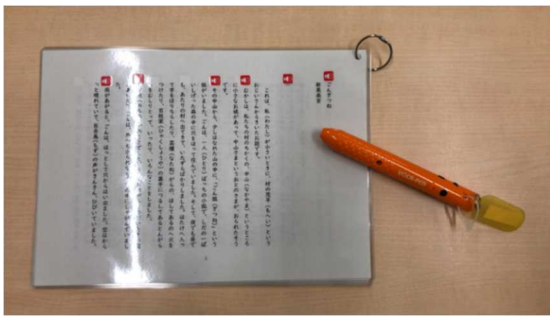
功労者表彰

活動分野	学習、情報保障、 その他(ライフスキル教育)
主な対象	知的障害、肢体不自由、 発達障害、重度・重複障害児等
団体の規模	教授 3名 学生 7名 特定教員 2名 特定研究員 3名 有期職員 16名

活動の説明

①活動内容	本プロジェクトの名称は、療育 (Treatment)、子育て (Rearing)、教育 (Education)、合理的配慮 (Accommodation)、特別支援 (Support)、研究 (Research)、愛媛県 (Ehime)の頭文字をとったもので「生涯学習が障害のある人を地域の宝に変える！」という理念を表しています。愛媛県内の障害児者支援団体(当事者会、保護者会、行政等)と連携し、学校外において、幼児期～青年期の障害児者が社会性の向上について学ぶ機会(ライフスキル教育/ソーシャルスキルトレーニング事業)を実施しています。また、支援機器(視線入力装置、会話補助装置等)を用いた生涯学習支援や読書のバリアフリー化支援(文字の音声化/デジタル化)を行うことで、様々な障害当事者の読書環境の情報保障に寄与しています。
②活動の経緯・体制	代表者・苺田知則が赴任した2005年度から、大学生・大学院生と協働しつつ、生涯学習支援事業として開始しました。協働する教職員(榎木暢子、中野広輔、八木良広、村上沙耶佳他)が増えたことで様々な障害に対応する形で事業を発展させることができました。大学内にボランティアセンターを設置し、行政、障害児者支援団体、保健医療福祉機関からも協力を得ながら、ボランティアの確保・養成に努めています。
③活動の効果等	開始当時は一研究室の小規模な取り組みでしたが、現在、本プロジェクトは、愛媛県内・四国地区の障害児者対象の生涯学習支援に関する先駆的な取組へと発展しています。特に、「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」により、ブロック別コンファレンス「O(まる)のつどい」を開催し、障害者の多様な生涯学習支援に関する地域住民の興味関心、行政・社会教育関連機関の人材の意識を高める取り組みを行っています。今後も西日本における推進役を担っていきたいと考えています。

活動の様子

	
訪問カレッジ@愛媛大学における学習の様子	会話補助装置を援用した音声読み上げによる読書支援の例

プロフィール

活動地	福岡県福岡市
団体名	中村学園大学発達支援センター
活動名称	青年期の発達障害者を対象とした対人交流学習支援活動 動作法を通じた自立支援活動
PRポイント	幼児から大人まで、多様性ある人が集い、 からだもこころもこちよく。
連携している 団体等	幼稚園・保育園、その他（福岡発達障がい者親の会たけのこ）

功労者表彰

活動分野	その他（心理療法）
主な対象	障害種問わず（主に発達障害・ 肢体不自由児）
団体の規模	学生 15～25名 教員 3～5名

活動の説明

①活動内容	<p>【青年期発達障害者対人交流支援】</p> <p>良好な対人関係を築くことが困難な発達障害者は、青年期自立前に、社会生活に必要な対人交流のあり方を改めて身に付けることが重要であるため、集団心理療法グループ「TRG:たけのこロール・プレインググループ」に参加しています。ゲーム、ロール・プレイング、ディスカッションを通し、他者と安心して関わりながら、自己理解・他者理解を深め、社会性・コミュニケーション力を高めることをめざします。特にロール・プレイングでは、社会生活で起きる様々な場面を想定し、その状況に応じた役割から、よりよい自己表現のあり方・振る舞いを体験的に考える機会を提供しています。</p> <p>【動作法訓練】</p> <p>動作不自由のある肢体不自由者（大人の部）・行動面で不適応を示す発達障害児（子どもの部）に対し、姿勢・動作の改善を課題として、週に1回開催しています。なお、動作法とは、不適切な力の入れ方により不調をきたしている動作改善のため、自己コントロール力を高め、心身ともに、より適応的に活性化をめざす心理療法です。</p>
②活動の経緯・ 体制	<p>地域支援を目的として、本学で特別支援教育・障害児保育関連科目を担当する教員が指導者として参加しています。また、学生がサポーターとして参加し、障害児を対象とする将来の保育・教育職に向けて実践的に学んでいます。さらに対人交流支援グループは、地域の発達障害者親の会と連携し、当事者の視点で実生活に必要な課題を取組テーマとして選定しています。</p>
③活動の効果等	<p>青年期グループに参加し、発達障害者は、安心して他者と一緒に関わることができる集団活動を通して、自分を認められる体験、他者への肯定的な関心を高めています。また、動作法訓練会の参加者は、動作法により自身の心身の状態について気づきを増し、動作不調の改善に取り組む中で、日常生活への適応につながる自己コントロール力を高めています。</p>



活動の様子

	
青年期発達障害者のグループ、好きなこと・得意なこと発表会	動作法訓練会 大人の部

プロフィール	
活動地	熊本県熊本市
団体名	九州ルーテル学院大学 自閉症支援部
活動名称	自閉スペクトラム症児・者への生涯学習支援活動
PRポイント	幼児、小学生、中学生、高校生の4つの年齢別グループでの遊びや学習、余暇活動等の支援及びピアカウンセリングや情報交換をととした保護者支援
連携している団体等	その他(熊本県自閉スペクトラム症協会)

功労者表彰	
活動分野	その他(自閉スペクトラム症児・者への生涯学習支援活動)
主な対象	自閉スペクトラム症児・者
団体の規模	学生 57名 教員 1名 その他スタッフ 4名

活動の説明	
①活動内容	<p>毎週土曜日の支援活動を中心に、四季イベントとして8月に夏季キャンプ、12月にクリスマス会、3月に卒級式・お楽しみ会の「内容の立案」「計画作成」「実際の支援」を行っています。支援活動では、発達段階ごとに4つのグループに分かれて、以下の取組を行っています。</p> <p>【幼児学級(幼児)】 手遊び、リトミック、作品づくり、サーキット等による活動を中心に、音楽に合わせて体を動かしたり、言葉や作品で表現したりすることができるように工夫しています。</p> <p>【1・2・3年学級(小学校低学年)】 手遊び、工作、サーキット、買い物等の活動を行っています。買い物では、好きな物を選んで買う活動とお金の計算や「お願いします」などの言葉でのやりとりが行えるように支援をしています。</p> <p>【4・5・6年学級(小学校高学年)】 手遊び、工作、サーキット、買い物等の活動を行っています。買い物ではワークシートを使って計算し購入する活動と、売る活動を行っています。</p> <p>【中高校学級(中学生・高校生)】 運動遊びと調理活動を中心に行っています。調理活動では手先の細やかな運動を楽しみながら行うことを通じ、身体の動きをコントロールできるようになることを目的としています。</p>
②活動の経緯・体制	<p>専門分野の教員及び学外の協力スタッフの指導の下、支援活動について週1~2回のグループ会議を実施しています。また、四季イベント活動の企画立案では、1か月前から責任者会議を2回、スタッフ全員を招集しての全体通しを1回実施しています。</p> <p>学生スタッフは、総リーダー・副リーダー(各1名)の統括の下、各グループリーダー(6名)を位置づけ、各グループに約20名の学生スタッフが配属され支援にあたっています。</p>
③活動の効果等	<p>自閉スペクトラム症への支援成果として、①運動感覚や知的・言葉の発達が促されている。②表現力が高まり、他者との共同作業や用具の貸し借りにおけるコミュニケーションが促されている。③成就感・達成感を味わうことにより、他者と関わる活動にも取り組むことができるようになってきている。④児童生徒の情緒の安定を促している。⑤四季イベントで成人自閉スペクトラム症者との交流を行うことにより、児童生徒の実態や現状の把握にも繋がり、学生の学びが深まっている。これらの点が挙げられます。</p> <p>また、本支援活動と併行して、保護者は、ピアカウンセリングや情報交換を行っており、子育てに対する悩みや不安を解消する場となっています。</p>

活動の様子	
	
支援活動の一コマ(中高校生学級)	やまびこキャンプの一コマ

お知らせ

文部科学省Webサイトでは、障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。是非ご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm

障害者の生涯学習

検索

or

